シラバス

2020年度

作業療法学科

学校法人　医療創生大学

千葉・柏リハビリテーション学院

シラバス（Syllabus）について

　シラバスとは学習計画のことであり、個別講義の受講に関しての情報（概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法）が全て盛り込まれている。

シラバスを利用する目的として、
①学生が講義の流れを理解し、円滑に授業を受けられる。
②教員は学生に対して円滑に授業を進行できる。

　以上のために利用され、授業計画の進捗状況と、学生が目標を達成し、学習効果をあげているかを教員だけでなく学生の両者がその状況を総括できるものである。また、シラバスを介して学生と教員間の互いのコミュニケーションのツールとして活用できるものである。

　学生はシラバスを通読し、常に携帯するように心がけてください。そして充実した学生生活を送るため、また効率良い学習のために大いに役立ててください。

Ⅰ．千葉・柏リハビリテーション学院の教育理念

葵会グループの「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立する進化した医療を提供することを踏まえ「健康でかけがえのないその人らしい人生を尊重する」ことを教育理念とした教育を実践する。「その人らしい人生」とは、その人の人格を尊重することのみならず、唯一無二のかけがえのない健康な人生そのものを尊重することである。

葵会グループの理念に基づいた教育を実践するとは、理学療法、作業療法に必要な知識・技術・態度を得し、他者に対する暖かいまなざしを持ち「ケアリング」と「コーチング」を追求する高い倫理観を持った専門医療技術者を育てることである。さらに、理学療法士・作業療法士という職業を通して、学修者の「アイデンティティ」形成が深められ、それが職業観に結びつくような教育を実践することである。

Ⅱ．教育目的・教育目標

教育目的

科学的根拠に基づき、主体的に考え、実践できる専門医療技術者の育成のために、理学療法・作業療法に関する理論および技術を教授する。　そして、専門医療技術者としての誇りと自覚を持ち、葵会グループ・地域社会に広く貢献できる専門技術者を育成することを目的とする。

教育目標

1　生命の尊厳を基盤とし、理学療法・作業療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する能力を養う。

2　対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し　理学療法・作業療法を実践できる能力を養う。

3　自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。

4　進展する医療や社会のニーズに対応した臨床的観察力・分析力を活用し、治療計画立案能力を養う。

5　保健・医療・福祉チームの一員として、理学療法・作業療法の役割と責任を果たし、他職種と協同・調整する能力を養う。

6　専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。

Ⅲ. 学科別教育目的・教育目標　（作業療法学科）

人の作業的公正を促す作業療法士として、対象者を中心とし、科学的根拠にもとづく作業療法を実践することができる。主体的に自己涵養を行い、地域における作業療法の役割を遂行できる人材を育成する。

このために教職員は最新の知識と技術について学生に伝達するとともに柔軟な教育方法のもとに、日本作業療法協会の定める卒前教育における到達目標「自ら学ぶ力を育て、作業療法の基本的な知識と技能を修得する」ことに加え、全人間的な教育を行うことにより地域社会に貢献することのできる作業療法士を育成することとする。

1　基本的知識の習得
国家試験に必要な医学的な基礎知識、関連領域の基礎知識を習得する

2　人間を総合的に把握できる
障害の有無にかかわらず、人の作業的側面及び全人間的に把握できるようにする

3　作業療法実践に関して科学的根拠に基づく判断を行い、実践できる
科学的根拠について探求し、対象者に合わせたリーズニングを実践できる

4　作業療法におけるtherapeutic use of selfのために、自己を洞察し、ケアリングできる
自己の洞察を行い、therapeutic use of selfに基づくケアリングができるよう自己と他者について学ぶ

5　作業療法実践に必要な臨床的観察、分析を社会のニーズに合わせて実践できる
臨床において必要な観察力を身に着け、対象者の作業状態を分析する能力を養う

6　多職種協働のためのチーム運営、実践能力を養う
多職種協働のため、多職種について理解するとともに作業療法について説明できる

7　専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う
臨床における自己教育実践のために必要な学習方法について身に着ける

						1年次			2年次			3年次			合計		
区分	教育内容	新規定	規定単位	科目名	授業形態	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 **社会の理解**	14	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	15	2
				自然科学概論	講義	30	15	2							30	15	2
				医学情報処理	講義	30	15	2							30	15	2
				保健体育	講義	30	15	2							30	15	2
				医学英語	講義	30	15	2							30	15	2
				心理学	講義	30	15	2							30	15	2
				文章表現法	講義	30	15	2							30	15	2
				小計		210	105	14							210	105	14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	12	13	解剖学	講義	120	60	4							120	60	4
				生理学	講義	120	60	4							120	60	4
				人間発達	講義	15	8	1							15	8	1
				運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				運動学Ⅱ	講義・演習				60	30	2				60	30	2
				運動学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				小計		285	143	10	105	53	3				390	196	13
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	14	14	病理学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				臨床心理学	講義	15	8	1							15	8	1
				内科学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				整形外科学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				神経内科学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				臨床医学と画像診断	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				精神医学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				小児科学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				老年医学	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				予防医学と公衆衛生	講義	15	8	1							15	8	1
				ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				人体と薬理	講義	15	8	1							15	8	1
				救命救急の基礎	講義	15	8	1							15	8	1
				人体と栄養	講義	15	8	1							15	8	1
				小計		285	145	12	60	30	2				345	175	14
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	4	職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1							15	8	1
				リハビリテーション概論	講義	30	15	1							30	15	1
				地域マネージメント論	講義				15	8	1				15	8	1
				多職種連携演習	演習	45	23	1							45	23	1
				小計		90	46	3	15	8	1				105	54	4

						1年次			2年次			3年次			合計		
区分	教育内容	規定単位	規定単位	科目名	授業形態	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数	時間数	コマ数	履修単位数
専門分野	基礎作業療法学	5	6	作業療法概論	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				作業療法理論	講義				15	8	1				15	8	1
				作業療法研究法	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				作業療法研究法演習	演習							45	23	1	45	23	1
				基礎作業分析学	講義・演習	30	15	1							30	15	1
				基礎作業分析学演習	演習	45	23	1							45	23	1
				小計		105	53	3	45	23	2	45	23	1	195	99	6
	作業療法管理学	2	2	作業療法運営管理	講義							30	15	2	30	15	2
				小計								30	15	2	30	15	2
	作業療法評価学	5	6	身体機能障害作業療法評価学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				身体機能障害作業療法評価学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				精神機能作業療法評価学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				精神機能作業療法評価学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				身体機能作業療法評価学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				精神機能作業療法評価学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				小計					210	106	6				210	106	6
	作業療法治療学	19	19	義肢装具学	講義				30	15	2				30	15	2
				日常生活動作援助論	講義				30	15	2				30	15	2
				日常生活動作援助論演習	演習				45	23	1				45	23	1
				中枢神経疾患作業療法治療学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				中枢神経疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				身体障害作業療法治療学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				運動器疾患作業療法治療学	講義				30	15	2				30	15	2
				内部疾患作業療法治療学	講義				30	15	2				30	15	2
				精神疾患作業療法治療学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				精神疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				精神疾患作業治療学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				発達障害作業療法治療学	講義				30	15	2				30	15	2
				老年期作業療法治療学	講義・演習				30	15	1				30	15	1
				老年期治療学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				小計					480	242	19				480	242	19
	地域作業療法学	4	5	生活環境論	講義				30	15	2				30	15	2
				地域作業療法学	講義				30	15	2				30	15	2
				地域作業療法学演習	演習				45	23	1				45	23	1
				小計					105	53	5				105	53	5
	臨床実習	22	26	見学実習Ⅰ	実習	45		1							45		1
				見学実習Ⅱ	実習	45		1							45		1
				検査実習	実習				45		1				45		1
				評価実習Ⅰ	実習				135		3				135		3
				評価実習Ⅱ	実習				135		3				135		3
				総合臨床実習Ⅰ	実習							360		8	360		8
				総合臨床実習Ⅱ	実習							360		8	360		8
				地域実践実習	実習							45		1	45		1
				小計		90		2	315		7	765		17	1170		26
選択必修専門分野	作業療法治療学特論		3	集団的作業療法特論	演習	45	23	1							45	23	1
				遊び・余暇活動特論	演習	45	23	1							45	23	1
				ハンドセラピー特論	演習				45	23	1				45	23	1
				福祉機器特論	演習				45	23	1				45	23	1
				高次脳機能障害特論	演習				45	23	1				45	23	1
				臨床作業療法特論	演習				45	23	1				45	23	1
				徒手療法特論	演習							45	23	1	45	23	1
				保健統計分析学特論	演習							45	23	1	45	23	1
				小計		45	23	1	45	23	1	45	23	1	135	69	3
合計		101	112			1110	515	45	1380	538	46	885	61	21	3375	1114	112

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　ⅱ）作業療法管理学 　ⅲ）作業療法評価学 　ⅳ）作業療法治療学 　ⅴ）地域作業療法学 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法治療学特論	Ⅰ 基礎分野 科学的思考の基盤　人間と生活 14単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間関係とコミュニケーション	講 義	前 期	OT1年	２単位	30時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 近年の医学教育では言葉や対話を技術という観点から捉え、コミュニケーションスキルは医療面接の核心　部分であり、その教育が必要であるという共通認識が得られている。また、出会う対象者の状況を理解し　迎える、信頼を得るツールともいえる。この講義を通して、様々なコミュニケーションスキルを学び考え、体験的なワーク、グループワークを通して、自己理解を深め、現場で活用できるコミュニケーションスキルを身に付ける。「わかる」ではなく、「できる」ようになる 【行動目標】 ・コミュニケーションスキルの必要性を理解する ・自身の特性を理解し、適切なコミュニケーションスキルを獲得し実行できる ・他者の話を傾聴、共感、理解できる ・他者の話を認めたうえで、自身の考えを伝えられる
成績評価方法	授業態度、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月8日(水)	3	コミュニケーションとは　～重要性を理解する・自身を知る～	高梨翼
2	4月15日(水)	3	自己紹介　～自身を知ってもらう～	
3	4月22日(水)	3	聴くスキル①　～表情/目線、挨拶、姿勢/視線、対人距離～	
4	5月6日(水)	3	聴くスキル②　～傾聴、ペーシング/ミラーリング、繰り返し/言い換え～	
5	5月13日(水)	3	聴くスキル③　～雑談/クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン～	
6	5月20日(水)	3	聴くスキル④　～要約、沈黙/間～	
7	5月27日(水)	3	伝えるスキル①　～第一印象、伝える順序、確認、表現～	
8	6月3日(水)	3	伝えるスキル②　～声の大きさ、ペース/トーン、スピード/間/抑揚	
9	6月12日(金)	2	伝えるスキル③　～5W1H、情報処理、伝えた後の一言、指示/依頼	
10	6月19日(金)	2	共感スキル①　～感受性/違和感、先入観/バイアス、思い込み、同情～	
11	6月26日(金)	2	共感スキル②　～受容、共感、励まし、リフレーミング	
12	7月3日(金)	2	社会・経済的な背景および家族関係に問題のある事例に対する検討	
13	7月10日(金)	2	コミュニケーションが困難な事例に対する検討	
14	7月17日(金)	2	障害受容が困難な事例に対する検討	
15	7月24日(金)	2	対象者以外の関係者との関わり方が難しい事例に対する検討	

（履修者へのコメント）
コミュニケーションは、人と関わるうえで必須のスキルです。作業療法士は、特に対象者に寄り添い、理解し、心のケアも含め関わっていく職業です。この授業で、知識だけでなく、楽しみながら技術を身に付けて頂きたいと考えています。知識や治療技術があるセラピストもコミュニケーションスキルが乏しいと治療結果が出づらくなります。一緒に安心感を与えられる人になりましょう！！

（テキスト）
・特に指定しない

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
自然科学概論	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	齊藤賢治

教育目標	【一般目標】 ・リハビリテーションに必要な科学的思考の基礎を身につける。 ・自然科学領域の物理と化学のリハビリテーションに関連する事項を理解する。 【行動目標】 ・リハビリテーションに必要な物理学の応用について説明できる。 ・リハビリテーションに必要な基礎的な化学的事項について説明できる。 ・将来、リハビリテーションにおける課題に対し、科学的･論理的に考察を行い、専門医療技術者として、それらを合理的に解決できる。
成績評価方法	定期試験により評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月 7日(火)	4	科学の基礎知識, 力とは, 力の釣合い, ベクトルとスカラー	齊藤賢治
2	4月14日(火)	4	物体の運動, 速度･加速度, ニュートンの法則, 運動方程式	
3	4月21日(火)	4	釣り合い, モーメント, 人体の重心のとらえ方	
4	4月28日(火)	4	てこと滑車, 人体のてこ, 滑車のリハビリテーションへの応用	
5	5月 5日(火)	4	仕事とエネルギー, エネルギー保存の法則	
6	5月12日(火)	4	等速円運動, 単振動, 波動の基礎	
7	5月19日(火)	4	静止流体, 表面張力, 弾性薄膜, 浮力, 人体と静止流体	
8	5月26日(火)	4	運動流体, 流体抵抗, 血液の流れ, 水中でのリハビリ	
9	6月 2日(火)	4	温度, 熱, 体温と体温測定	
10	6月9日(火)	4	音, 音の医療への応用	
11	6月16日(火)	4	光, 光の医療への応用	
12	6月23日(火)	4	人体と化学, 原子, 分子, 生体高分子	
13	6月 30日(火)	4	物質の３態, 化学結合, 化学式, 有機化合物, 物質量	
14	7月 7日(火)	4	化学反応, 酸化･還元, モル濃度, 酸性と塩基性	
15	7月14日(火)	4	人体での化学反応, 酵素, エネルギー代謝, 器官での反応例	

履修者へのコメント
・事前に、授業内容のプリントを配布するので、予習しておき、授業をしっかり聞くことが大切です。授業後、演習問題に取り組むことにより、より一層、理解を深めることができます。
・オフィスアワー(授業日12:00～13:00) がありますので、疑問･質問等あれば、受け付けます。授業で、理解不足があった場合、そのままにせず、解決しておくことが大切です。

テキスト
プリントを配布する。

参考書
・医療系のための物理　第2版　：佐藤幸一（東京教学社）
・高校化学の一般的な参考書

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学情報処理	講義	前期	OT1年	2単位	30時間	飯塚尚美

教育目標	【一般目標】 ・情報端末（パソコン、iPad）を利用するための基礎知識と活用方法を学びます。 ・情報の収集、加工、発信の全てを体験して、総合的に情報処理を行うための基礎を身に付けることを目標とします。 【行動目標】 ・今後の活動のいろいろなシーンで、情報端末を上手に利用できることを目指します。
成績評価方法	・定期試験（実技試験を含む）と、発表課題や提出物などから総合的に評価します。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	6月10日(水)	3	＜iPad＞基本操作（文書作成、情報収集、アプリの追加）	飯塚尚美
2		4	＜パソコン・講義＞タイピング、ICT環境の理解、情報モラル	
3	6月17日(水)	3	＜iPad＞基本操作（カメラ、写真）、プレゼンテーション資料の作成	
4		4	＜パソコン・講義＞タイピング、コンピュータ機器、基本操作	
5	6月24日(水)	3	＜iPad＞プレゼンテーション資料の作成	
6		4	＜パソコン＞タイピング、情報収集、文書作成の基本	
7	7月 1日(水)	3	＜iPad＞プレゼンテーションソフトを利用した発表	
8		4	＜パソコン＞タイピング、レポート作成の基本	
9	7月8日(水)	3	＜iPad＞プレゼンテーションソフトを利用した発表	
10		4	＜パソコン＞タイピング、表計算の基本	
11	7月15日(水)	3	＜iPad＞プレゼンテーションソフトを利用した発表	
12		4	＜パソコン＞タイピング、表計算の基本	
13	7月22日(水)	3	＜パソコン＞文書作成の応用、プレゼンテーション	
14		4	＜パソコン＞表計算の応用・グラフ作成	
15	7月29日(水)	3	＜パソコン＞タイピング、文書作成と表計算の総合演習	
16		4	期末試験	

履修者へのコメント
・情報端末の利用方法を学ぶことで、専門科目の学びに活かしていけるよう、さらにコミュニケーションを促進するツールとして活用できるよう、しっかり取り組んでください。

テキスト
・大学一年生のための情報リテラシー（丸善出版）

参考書

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健体育	講義	前期	0T1年	2単位	30時間	小島瑞貴

教育目標

【一般目標】
スポーツ実践を通して，他者とのコミュニケーションを図ることで，
スポーツへの理解はもとより社会性を身につける。

【行動目標】
授業に関わる準備・片付けや授業時間中における運営の補助などを積極的に行う。
また，授業時間中における活動方法・内容などは，チームメイトや仲間と密に
コミュニケーションをとり，主体的に決めていく。

成績評価方法

「授業参画」および「リアクションペーパー」により行う。
授業参画は各授業への出席と態度（授業準備や授業運営補助など）を評価する。
また，リアクションペーパーは初回と最終回に実施し，その取り組み態度を評価する。
これらの合計点（全体評価）は100点とし，60点以上の者を合格とする。
なお，全体評価における各評価観点の割合は以下の通りである。
ただし，出席回数が3分の2未満の者は上記に関係なく，不合格とする。
【割合】
授業参画　95%　　リアクションペーパー5%

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月 6日(月)	3	オリエンテーション・パラスポーツを知る	小島瑞貴
2		4		
3	4月13日(月)	3	パラスポーツ	
4		4		
5	5月11日(月)	3	フットサル	
6		4		
7	5月18日(月)	3	フットサル	
8		4		
9	5月25日(月)	3	アルティメット	
10		4		
11	6月1日(月)	3	アルティメット	
12		4		
13	6月 8日(月)	3	ベースゲーム	
14		4		
15	6月15日(月)	3	ベースゲーム	
16		4		

履修者へのコメント
・一緒に楽しく身体を動かしましょう！
・雨天時は内容を変更して実施します。

テキスト
・特になし

参考書
・特になし

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学英語	講義	前期	0T1年	2単位	30時間	小澤三千穂

教育目標	【一般目標】コミュニケーション能力を高める 【行動目標】・基礎力（理解力　表現力）を固める ・医療現場で使える英語を習得する
成績評価方法	定期試験及び小テストで到達度を評価する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月10日(金)	1	オリエンテーション　自己紹介（writing）	小澤三千穂
2	4月17日(金)	1	自己紹介の定型（speaking）　英単語	
3	4月24日(金)	1	英会話（訪問リハ想定）	
4	5月8日(金)	1	英文法（英文の構造）	
5	5月15日(金)	1	英文読解　英単語	
6	5月22日(金)	1	英単語（ virus allergey gauze …）英会話	
7	5月 29日(金)	1	英文法（代名詞）	
8	6月 5日(金)	1	英文読解	
9	6月12日(金)	1	英単語　英会話	
10	6月19日(金)	1	英文法（接続詞）英単語	
11	6月26日(金)	1	英会話テスト　英単語	
12	7月 3日(金)	1	英文読解　英単語	
13	7月10日(金)	1	英文法（疑問詞）英会話	
14	7月17日(金)	1	英会話実践（コミュニケーション）まとめ	
15	7月24日(金)	1	総復習とまとめ　補充問題	

履修者へのコメント
英語が不得意だと思っている人も大丈夫。新たなスタートです。気軽にチャレンジしてください。英語が出来ると便利ですよ。みんなで一緒に楽しく授業を創りましょう。たくさん質問してください。

テキストは特にないので毎時間のプリントを大切にしてください。

辞書（英和　和英）が必需です。

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
心理学	講義	前期	0T1年	2単位	30時間	松平友見

教育目標	【一般目標】 1. 認知心理学の基本的知識を網羅的に理解する。 2. 脳の機能と構造の概略を理解する。 3. 心理的・精神的な障害について理解する。 【行動目標】 上記1.～3.について、他人にわかりやすく説明できるようになる。
成績評価方法	定期試験により評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月 7日(火)	2	心理学概論　－ 認知心理学を中心に －	松平友見
2	4月14日(火)	2	感覚	
3	4月21日(火)	2	知覚	
4	4月28日(火)	2	記憶①	
5	5月 5日(火)	2	記憶②	
6	5月12日(火)	2	知能①	
7	5月19日(火)	2	知能②	
8	5月26日(火)	2	学習	
9	6月 2日(火)	2	復習テスト（解答と解説）	
10	6月9日(火)	2	パーソナリティ	
11	6月16日(火)	2	パーソナリティ障害	
12	6月23日(火)	2	脳の構造，機能	
13	6月 30日(火)	2	高次脳機能障害	
14	7月 7日(火)	2	発達障害	
15	7月14日(火)	2	まとめ	

履修者へのコメント
・人間の認知機能（見る，聞く，考える，記憶するなど）の仕組みとともに、それが障害された場合にはどのような症状が現れるのかを学びます。

テキスト
・はじめて出会う心理学　長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ）(2011)

参考書
・必要に応じ適宜紹介します。

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
文章表現法	講義	前期	0T1年	2単位	30時間	佐藤喬

教育目標	【一般目標】 実務実習におけるコミュニケーション能力、文章表現力を養う。 資格試験に適応する文章読解力を身につける。 【行動目標】 文章表現力を重視して、毎回、作文かレポートを提出させ、添削する。
成績評価方法	定期試験、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月 7日(火)	3	授業の方針、内容説明、句読点 ＋ 作文orレポート練習	佐藤喬
2	4月14日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 文章読解	
3	4月21日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（漢字など）	
4	4月28日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 手紙（依頼、礼状）の書き方	
5	5月 5日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（挨拶など）	
6	5月12日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 文章読解	
7	5月19日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（カタカナ語）	
8	5月26日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 敬語の理解	
9	6月 2日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 敬語の理解（２回目）	
10	6月9日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識(リハビリ用語)	
11	6月16日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（身体用語）	
12	6月23日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 文章読解	
13	6月 30日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（病名用語）	
14	7月 7日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（慣用句など）	
15	7月14日(火)	3	作文orレポート練習 ＋ 言葉の知識（三字、四字熟語）	

履修者へのコメント
・受講者の視点に立って、一方通行にならない授業を行います。

テキスト
・自作プリントを配布する。

参考書
・随時案内する。

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　**ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達** 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　ⅱ）作業療法管理学 　ⅲ）作業療法評価学 　ⅳ）作業療法治療学 　ⅴ）地域作業療法学 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法治療学特論	Ⅱ 専門基礎分野 人体の構造と機能及び心身の発達 13単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学	講義	通年 (前期)	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平

教育目標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。 【行動目標】 ・人体の基本構造について理解できる。 ・骨の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。
成績評価方法	定期試験、提出物等で総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1 2	4月 9日(木)	1 2	解剖学総論、解剖学とは	瀧本章平
3 4	4月16日(木)	1 2	細胞と組織	
5 6	4月23日(木)	1 2	骨の基本構造	
7 8	4月30日(木)	1 2	頭蓋の骨	
9 10	5月 7日(木)	1 2	脊柱の骨	
11 12	5月14日(木)	1 2	胸郭の骨	
13 14	5月21日(木)	1 2	上肢の骨	
15 16	5月28日(木)	1 2	下肢の骨	
17 18	6月 4日(木)	1 2	頭蓋・脊柱の関節	
19 20	6月 11日(木)	1 2	上肢の関節、下肢の関節	
21 22	6月18日(木)	1 2	筋の基本構造	
23 24	6月25日(木)	1 2	頭頸部の筋	
25 26	7月2日(木)	1 2	上肢の筋	
27 28	7月 9日(木)	1 2	下肢の筋	
29 30	7月28日(火)	1 2	体幹の筋	

履修者へのコメント
・解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。

テキスト
・イラスト解剖学　第9版（中外医学社）
・プロメテウス解剖学 コアアトラス　第3版（医学書院）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学	講義	通年（後期）	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平

教育目標

【一般目標】
医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な神経・感覚器・内臓を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。

【行動目標】
・神経を中枢と末梢に分けることができる。
・神経の走行を述べることができる。
・感覚器系の名称を説明できる。
・内臓（循環器・呼吸器・消化器など）を説明することができる。

成績評価方法

定期試験、提出物等で総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
31 32	9月 3日(木)	1 2	神経細胞の分類	瀧本章平
33 34	9月10日(木)	1 2	中枢神経と末梢神経の違い	
35 36	9月17日(木)	1 2	中枢神経①（脳）	
37 38	9月24日(木)	1 2	中枢神経①（脊髄）	
39 40	10月 1日(木)	1 2	末梢神経①（脳神経）	
41 42	10月8日(木)	1 2	末梢神経②（脊髄神経）	
43 44	10月15日(木)	1 2	末梢神経③（自律神経）	
45 46	10月22日(木)	1 2	感覚器系①（嗅覚器・味覚器）	
47 48	10月 29日(木)	1 2	感覚器系②（聴覚器・平衡覚）	
49 50	11月 5日(木)	1 2	感覚器系③（視覚器）	
51 52	11月12日(木)	1 2	内臓学①（循環器1）	
53 54	11月19日(木)	1 2	内臓学②（循環器2）	
55 56	11月26日(木)	1 2	内臓学③（呼吸器）	
57 58	12月 3日(木)	1 2	内臓学④（消化器）	
59 60	12月10日(木)	1 2	中心神経⑤（その他）	

履修者へのコメント
・解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。

テキスト
・イラスト解剖学　第9版（中外医学社）
・プロメテウス解剖学 コアアトラス　第3版（医学書院）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学	講義	通年 (前期)	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平

教育目標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。 【行動目標】 ・人体の機能について学ぶ。 ・血液の働きについて学び、体液と血液の違いについて学ぶ。 ・遺伝子とDNAの違いについて学ぶ。 ・内臓機能（循環器・呼吸器）を説明することができる。
成績評価方法	定期試験、提出物等で総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月 8日(水)	5	人体の機能とは	瀧本章平
2	4月 15日(水)	5		
3	4月 22日(水)	5	細胞の働き	
4	5月 6日(水)	5		
5	5月 13日(水)	5	遺伝子とDNA	
6	5月 15日(金)	3		
7	5月 20日(水)	5	赤血球の働きとその破壊、血液型	
8	5月 22日(金)	3		
9	5月 27日(水)	5	血小板の働き、白血球の種類	
10	5月 29日(金)	3		
11	6月 3日(水)	5	生体防御機構と免役	
12	6月 5日(金)	3		
13	6月 10日(水)	5	血液凝固反応、カスケード反応	
14	6月 17日(水)	5		
15	6月 24日(水)	5	体液の循環、酸塩基平衡	
16	6月 30日(火)	1		
17	7月 4日(土)	1	骨の生理	
18	7月 7日(火)	1		
19	7月 8日(水)	5	骨格筋の生理	
20	7月 11日(土)	1		
21	7月 14日(火)	1	筋の収縮機構、α－γ連関	
22	7月 15日(水)	5		
23	7月 20日(月)	3	循環器、心臓	
24		4		
25	7月 22日(水)	5	刺激伝導系、血圧その他循環の生理	
26	7月 25日(土)	1		
27	7月 28日(火)	3	呼吸器系	
28		4		
29	7月 29日(水)	1	脳波と睡眠	
30		2		

履修者へのコメント
・生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。

テキスト
・生理学テキスト　第8版（文光堂）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学	講義	通年（後期）	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平

教育目標

【一般目標】
医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。

【行動目標】
・各内臓機能について学ぶ。
・消化器系の酵素や吸収方法について学ぶ。
・内分泌系の作用のみならず過剰症や低下症について学ぶ。
・神経の伝導について学ぶ。

成績評価方法

定期試験、提出物等で総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
31 32	9月 1日(火)	3 4	消化器系の全容	瀧本章平
33 34	9月 8日(火)	3 4	口～肛門までの消化・吸収	
35 36	9月 15日(火)	3 4	肝臓、胆のう、膵臓の働き	
37 38	9月 22日(火)	3 4	泌尿器系、尿の生成	
39 40	9月 29日(火)	3 4	レニンーアンジオテンシンーアルドステロン系、その他	
41 42	10月 6日(火)	3 4	内分泌①	
43 44	10月 13日(火)	3 4	内分泌②	
45 46	10月 20日(火)	3 4	内分泌③	
47 48	10月 27日(火)	3 4	神経系、脱分極と再分極	
49 50	11月 2日(月)	3 4	静止膜電位と神経伝達物質	
51 52	11月 10日(火)	3 4	神経の伝導路	
53 54	11月 17日(火)	3 4	自律神経系の作用	
55 56	11月 24日(火)	3 4	特殊感覚①	
57 58	12月 1日(火)	3 4	特殊感覚②	
59 60	12月 8日(火)	3 4	生殖器系	

履修者へのコメント
・生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。

テキスト
・生理学テキスト　第8版（文光堂）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間発達	講義	後期	0T1年	1単位	15時間	松平友見

教育目標	【一般目標】 1. 発達段階に応じた定型的な心身の変化を理解する。 【行動目標】 1. 上記について、他人にわかりやすく説明できるようになる。
成績評価方法	定期試験により評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	10月27日(火)	2	人間発達学概論	松平友見
2	11月 3日(火)	2	身体発達・運動機能	
3	11月10日(火)	2	言語	
4	11月17日(火)	2	アタッチメント	
5	11月24日(火)	2	あそびと社会関係	
6	12月 1日(火)	2	アイデンティティ	
7	12月8日(火)	2	成人期・老年期	
8	12月15日(火)	2	死の受容・障害の受容	

（履修者へのコメント）
・発達の遅れや偏りを理解するためには、平均的な発達がどのようなものかを知っておく必要があります。
心理学（前期）で学んだ知識をもとに、人間の一生をとおした定型発達について学びます。

（テキスト）
・生涯人間発達学　改訂第2版　増補版（三輪書店）（2012）　※変更になる可能性もあります。

（参考書）
・はじめて出会う心理学　長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ）（2011）

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅰ	講義・演習	後 期	0T1年	1単位	30時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 1. 運動学の基本的な用語を適切に使用し，理解することができる 2. 基本的な上肢・下肢，体幹の運動、機能・構造について,筋学を中心に理解することができる 【行動目標】 1. 運動学の基本的な用語を適切に使用し，説明することができる 2. 基本的な上肢・下肢，体幹の運動、機能・構造について,筋学を中心に説明することができる
成績評価方法	・定期試験 ・提出物（授業内配布資料提出、各関節・筋のスケッチノート作成） ・授業内小テスト結果（全5回実施予定） により総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月4日(金)	1	オリエンテーション・運動学とは	桜井淳
2		2	上肢帯・肩関節の筋①	
3	9月11日(金)	1	上肢帯・肩関節の筋②	
4		2	上肢帯・肘関節・前腕の筋	
5	9月18日(金)	1	手関節・外来筋	
6		2	手関節・手内在筋	
7	10月2日(金)	1	下肢帯・股関節の筋①	
8		2	下肢帯・股関節の筋②	
9		3	下肢帯・膝関節の筋	
10		4	足関節の筋	
11	10月9日(金)	1	頚椎・舌骨筋群	
12		2	胸椎・呼吸筋	
13	10月16日(金)	1	腰椎・腰椎の筋	
14		2	顔面・咀嚼筋	
15	10月23日(金)	1	顔面・咀嚼筋	
16		2	総括	

（履修者へのコメント）
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。

（テキスト）
・基礎運動学（第６版補訂）著：中村隆一 他　医歯薬出版株式会社

（参考書）
・筋・骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ	講義・演習	前 期	0T2年	２単位	60時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 1.運動と生体機能との関係について理解できる 2.姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点について理解できる 3.運動発達、運動学習についてその要素や特徴を理解できる 【行動目標】 1.運動と生体機能との関係について説明できる 2.姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点について説明できる 3.運動発達、運動学習についてその要素や特徴を説明できる
成績評価方法	・定期試験60点以上 ・提出物 ・授業内小テスト結果

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月6日(月)	1	運動器の機能①	桜井淳
2		2		
3	4月13日(月)	1	運動器の機能②	
4		2		
5	4月20日(月)	1	随意運動	
6		2		
7	5月11日(月)	1	姿勢制御・重心①	
8		2		
9		3	姿勢制御・重心②	
10		4		
11	5月18日(月)	1	歩行①	
12		2		
13	5月25日(月)	1	歩行②	
14		2		
15	6月1日(月)	1	歩行③	

(履修者へのコメント)
・主体は講義形式であるが，実技を行うことがあるので極力動きやすい服装であることが望ましい。
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。

(テキスト)

・基礎運動学（第６版補訂）著：中村隆一 他　医歯薬出版株式会社

(参考書)
・筋・骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ	講義・演習	前 期	0T2年	２単位	60時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 1.運動と生体機能との関係について理解できる 2.姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点について理解できる 3.運動発達、運動学習についてその要素や特徴を理解できる 【行動目標】 1.運動と生体機能との関係について説明できる 2.姿勢制御の仕組み、歩行と走行についてその要素や相違点について説明できる 3.運動発達、運動学習についてその要素や特徴を説明できる
成績評価方法	・定期試験60点以上 ・提出物 ・授業内小テスト結果

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	6月1日(月)	2	歩行③	桜井淳
17	6月8日(月)	1	呼吸	
18		2		
19	6月15日(月)	1	血液と循環	
20		2		
21	6月22日(月)	1	体温調整，腎臓と酸塩基平衡	
22		2		
23	6月29日(月)	1	体力と運動処方	
24		2		
25	7月6日(月)	1	栄養とエネルギー	
26		2		
27	7月20日(月)	1	運動発達	
28		2		
29	7月27日(月)	1	運動学習	
30		2		

(履修者へのコメント)
・主体は講義形式であるが，実技を行うことがあるので極力動きやすい服装であることが望ましい。
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。

(テキスト)

・基礎運動学（第６版補訂）著：中村隆一 他　医歯薬出版株式会社

(参考書)
・筋・骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学演習	演 習	前 期	OT2年	1単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 運動学Ⅰで学んだ上肢・下肢，体幹の運動、機能・構造について,筋学を中心に実習により確認する 【行動目標】 1.筋や骨の触診をして実際の部位や収縮を確認できる 2.各関節の構造について運動を通じて確認できる
成績評価方法	・提出物（随時レポート提出） ・実技試験60点以上

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月18日(月)	3	上肢・下肢・体幹における骨格の骨性指標のとらえ方①	桜井淳
2		4	上肢・下肢・体幹における骨格の骨性指標のとらえ方②	
3	5月25日(月)	3	肩甲上腕関節外転と肩甲骨上方回旋・上下橈尺関節について	
4		4	身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方・上肢①	
5	6月1日(月)	3	身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方・上肢②	
6		4	身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方・手指	
7	6月8日(月)	3	身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方・下肢①	
8		4	身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方・下肢②	
9	6月18日(木)	3	身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方・頭頸部・体幹	
10		4	まとめ（身体運動の面と軸・関節運動のとらえ方）	
11	6月25日(木)	3	関節運動と筋の触診・上肢①	
12		4	関節運動と筋の触診・上肢②	
13	7月2日(木)	3	関節運動と筋の触診・上肢③	
14		4	関節運動と筋の触診・上肢④	
15	7月9日(木)	3	関節運動と筋の触診・手指	

（履修者へのコメント）
・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（ポロシャツ・KCズボン）

（テキスト）
・基礎運動学（第６版補訂）著：中村隆一 他　医歯薬出版株式会社
・機能解剖学的触診技術　上肢・下肢・体幹　改訂版第2版　青木隆明　メジカルビュー

（参考書）
・筋・骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社
・新・徒手筋力検査法　原著第9版　協同医書出版社

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学演習	演 習	前 期	0T2年	1単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 運動学Ⅰで学んだ上肢・下肢，体幹の運動、機能・構造について,筋学を中心に実習により確認する 【行動目標】 1.筋や骨の触診をして実際の部位や収縮を確認できる 2.各関節の構造について運動を通じて確認できる
成績評価方法	・提出物（随時レポート提出） ・実技試験60点以上

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	7月9日(木)	4	関節運動と筋の触診・下肢①	桜井淳
17	7月16日(木)	1	関節運動と筋の触診・下肢②	
18		2	関節運動と筋の触診・下肢③	
19		3	関節運動と筋の触診・下肢④	
20		4	関節運動と筋の触診・下肢⑤	
21	7月23日(木)	1	関節運動と筋の触診・頭頸部・体幹①	
22		2	関節運動と筋の触診・頭頸部・体幹②	
23		3	まとめ（関節運動と筋の触診）①	
23		4	まとめ（関節運動と筋の触診）②	

（履修者へのコメント）
・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（ポロシャツ・KCズボン）

S

（参考書）
・筋・骨格系のキネシオロジー　医歯薬出版株式会社
・新・徒手筋力検査法　原著第9版　協同医書出版社

Ⅰ．基礎分野
　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解

Ⅱ．専門基礎分野
　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達
　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念

Ⅲ．専門分野
　ⅰ）基礎作業療法学
　ⅱ）作業療法管理学
　ⅲ）作業療法評価学
　ⅳ）作業療法治療学
　ⅴ）地域作業療法学
　ⅵ）臨床実習

Ⅳ．選択必修専門分野
　ⅰ）作業療法治療学特論

Ⅱ
専門基礎分野

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

14単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
病理学	講義・演習	前期	OT1年	1単位	30時間	福井謙二

教育目標

【一般目標】
1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し理解する.
2. 疾病の原因と,それによって生じる形態学的な変化を理解し,さらに,どのような機能的障害が引き起こされるかを理解する.
3. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて理解する.

【行動目標】
1. 疾病の原因について説明できる. 2. 先天異常, 奇形について説明できる. 3. 退行性病変について説明できる. 4. 進行性病変について説明できる. 5. 循環障害について説明できる. 6. 炎症について説明できる. 7. 免疫について説明できる. 8. 感染症について説明できる. 9. 腫瘍について説明できる. 10. 死因統計について説明できる. 11. 循環器系の疾患について説明できる. 12. 血液, 造血器系の疾患について説明できる。13. 呼吸器家の疾患について説明できる。14. 消化器系の疾患について説明できる. 15. 腎, 泌尿器系, 生殖器系, 乳腺の疾患について説明できる. 16. 神経系の疾患について説明できる. 17. 運動器系の疾患について説明できる.

成績評価方法

定期試験により判定する.

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月 7日(火)	1	病理学の意義. 病理診断の方法. 病因論. 病変の種類	福井謙二
2	4月14日(火)	1	先天異常, 奇形	
3	4月21日(火)	1	退行性病変, 代謝障害	
4	4月28日(火)	1	進行性病変	
5	5月12日(火)	1	循環障害	
6	5月19日(火)	1	炎症, 免疫	
7	5月26日(火)	1	感染症	
8	6月 2日(火)	1	腫瘍, 死因統計	
9	6月9日(火)	1	循環器系の疾患	
10	6月16日(火)	1	血液, 造血器系の疾患	
11	6月23日(火)	1	呼吸器系の疾患	
12	7月 4日(土)	2	消化器系の疾患	
13	7月11日(土)	2	腎, 泌尿器, 生殖器系, 乳腺の疾患	
14	7月18日(土)	2	神経系の疾患	
15	7月25日(土)	2	運動器系の疾患	

履修者へのコメント
・病理学の理解を深めるためには, 解剖学や生理学などの基礎医学を十分理解することが重要である.
・テキストは授業で使用する.

テキスト
・系統看護学講座 専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[1]　病理学
　大橋健一, 谷澤　徹, 藤原正親, 柴原純二著　(医学書院)

参考書

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床心理学	講義	後期	0T1年	1単位	15時間	松平友見

教育目標	【一般目標】 1. 異常心理学の基本的知識を理解する。 2. 心理アセスメントの手技を理解する。 3. 心理療法の手技を理解する。 【行動目標】 1. 上記1.～3.について、他人にわかりやすく説明できるようになる。
成績評価方法	定期試験により評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 1日(火)	2	臨床心理学概論	松平友見
2	9月8日(火)	2	異常心理学	
3	9月15日(火)	2	心理アセスメント	
4	9月22日(火)	2	精神分析①	
5	9月 29日(火)	2	精神分析②	
6	10月 6日(火)	2	認知行動療法①	
7	10月13日(火)	2	認知行動療法②	
8	10月20日(火)	2	クライエント中心療法	

履修者へのコメント
・心理学（前期）で学んだ知識をもとに、こころの疾患や障害、認知機能／パーソナリティ機能の評価、治療手技について学びます。

テキスト
・よくわかる臨床心理学　改訂新版　下山晴彦編（ミネルヴァ書房）（2010）

参考書
・はじめて出会う心理学　長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ）（2011）

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内科学	講義・演習	後期	0T1年	1単位	30時間	板倉光夫

教育目標	近年のリハビリテーションの考え方は大きく変化してきている。運動障害に対するリハビリテーションが主であったが、精神疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、視覚障害、聴覚障害、がん患者のリハビリと多岐にわたっている。また、リハビリ対象者が高齢化しており、高齢者は何らかの内科疾患を持っていることが多い。そのような患者さんのリハビリに対して内科的疾患の知識は必要不可欠であり、知識をもってリハビリテーションを行うか、またリハビリテーション中の異常事態に対して適切なる判断ができることが求められる。主要疾患について詳細に述べ理解を深めるようにする。
成績評価方法	定期試験および提出物などを総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 3日(木)	3	序説 理学・作業療法士にとって内科学を学ぶ意義 内科学とは,内科的診断と治療の実際	板倉光夫
2	9月10日(木)	3	症候学	
3	9月17日(木)	3	症候学,循環器疾患	
4	9月24日(木)	3	循環器疾患	
5	10月 1日(木)	3	呼吸器疾患	
6	10月8日(木)	3	呼吸器疾患,消化管疾患	
7	10月15日(木)	3	消化管疾患	
8	10月22日(木)	3	肝胆膵疾患	
9	10月 29日(木)	3	肝胆膵疾患,血液・造血器疾患	
10	11月 5日(木)	3	代謝性疾患	
11	11月12日(木)	3	内分泌疾患	
12	11月19日(木)	3	腎・泌尿器疾患	
13	11月26日(木)	3	アレルギー疾患，膠原病と類縁疾患，免疫不全症	
14	12月 3日(木)	3	感染症，セルフアセスメント	
15	12月10日(木)	3	総括	

履修者へのコメント

テキスト

参考書

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
整形外科学	講義・演習	後期	0T1年	1単位	30時間	山下晶子

教育目標	【一般目標】 人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療,リハビリテーションについて学習する。 【行動目標】 総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖、病態および運動評価について学び,各論として疾病疾患（炎症、内分泌性、退行性、先天性、循環器、神経・筋肉、脊椎）と外傷性疾患（骨折、脊髄損傷、外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断および離断）について学ぶ。
成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 2日(水)	3	整形外科基礎知識１：骨・関節	山下晶子
2		4	整形外科基礎知識２：神経、骨・関節・神経の病態生理	
3	9月9日(水)	3	運動器の評価	
4		4	運動器の検査法	
5	9月16日(水)	3	一般的整形外科的治療法：保存療法/手術療法/理学・作業療法	
6		4	炎症性疾患：感染性・非感染性疾患・膠原病	
7	9月23日(水)	3	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患	
8		4	先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患	
9	9月 30日(水)	3	骨・軟部腫瘍	
10		4	神経・筋疾患	
11	10月 7日(水)	3	脊椎の病態	
12		4	骨折	
13	10月14日(水)	3	脊髄損傷、関節における外傷性疾患	
14		4	末梢性神経における外傷性疾患	
15	10月21日(水)	3	スポーツ障害	
16		4	熱傷・凍傷、切断および離断	

履修者へのコメント
・復習を行い、毎回の事項を理解してください。不十分な点は教科書を参考に質問してください。

テキスト
・ 標準整形外科学　第13版（医学書院）

参考書
・授業内で資料を配布します。
・解剖学の教科書を参考にしてください。

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
神経内科学	講義・演習	後 期	OT1年	１単位	30時間	山崎洋次

教育目標	リハビリテーションの対象として神経疾患の頻度は最も高く，リハビリテーションスタッフやそれを目指す学生にとって重要な分野である．神経内科学の講義では，神経解剖・神経生理などの基礎医学を学習したあと，それに基づいた神経症候学を学習する．その後，神経内科学各論では，神経内科のほか脳外科・小児神経科などであつかう神経疾患全般について学習する．
成績評価方法	定期試験などから総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 3日(木)	4	神経内科学総論　解剖学	山崎洋次
2	9月10日(木)	4	神経内科学総論　生理学・薬理学	
3	9月17日(木)	4	神経内科学総論　主要神経症候①	
4	9月24日(木)	4	神経内科学総論　主要神経症候②	
5	10月 1日(木)	4	神経症候学総論　臨床検査・評価法	
6	10月8日(木)	4	神経内科学各論　脳血管障害	
7	10月15日(木)	4	神経内科学各論　変性疾患①	
8	10月22日(木)	4	神経内科学各論　変性疾患②	
9	10月 29日(木)	4	神経内科学各論　脱髄性疾患・末梢神経障害	
10	11月 5日(木)	4	神経内科学各論　筋疾患・神経筋接合部疾患	
11	11月12日(木)	4	神経内科学各論　高次脳機能障害・失語症	
12	11月19日(木)	4	神経内科学各論　認知症・腫瘍	
13	12月 3日(木)	4	神経内科学各論　脊髄疾患・感染症・外傷	
14	12月10日(木)	4	神経内科学各論　機能性疾患・自律神経障害・代謝性疾患	
15	12月17日(木)	4	先天性疾患・中毒	

（履修者へのコメント）
解剖学・生理学・病理学など基礎医学の習得が不十分であると神経内科学の履修に支障を来すため，これら前期科目の復習を各自おこなってから講義にのぞむこと．履修範囲が多いため，授業中に説明できなかった項目については各自でテキストに目を通すこと．

（教科書）
・江藤文夫編「神経内科学テキスト（改訂第4版）」南江堂

（参考書）
・神経内科学テキスト　改訂第４版　江藤文夫・飯島節 編集（南江堂）
・ベッドサイドの神経の診かた〈改訂18版〉　田崎義昭ほか著，南山堂

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床医学と画像診断	講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	山崎洋次

教育目標	【一般目標】 リハビリテーションの実践に必要な外科学的疾患の基礎知識と 画像診断に必要な基礎的な知識をを身に着けることができる。 【行動目標】 ・基礎的な疾患の概要について説明することができる ・リハビリテーション実践における関連性やリスクについて説明することができる
成績評価方法	・レポート課題により総合的に勘案する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 8日(火)	1	画像診断学総論①	山崎洋次
2	9月15日(火)	1	画像診断学総論②	
3	9月29日(火)	1	脳画像診断①	
4	10月 6日(火)	1	脳画像診断②	
5	10月13日(火)	1	脳画像診断③	
6	10月20日(火)	1	整形疾患画像診断①	
7	10月27日(火)	1	整形疾患画像診断②	
8	11月10日(火)	1	整形疾患画像診断③	
9	11月17日(火)	1	整形疾患画像診断④	
10	11月24日(火)	1	一般臨床医学（内科）	
11	12月 1日(火)	1	一般臨床医学（小児科）	
12	12月 8日(火)	1	一般臨床医学（精神科）	
13	12月15日(火)	1	一般臨床医学（皮膚科・耳鼻科・眼科）	
14	12月22日(火)	1	一般臨床医学（リハビリテーション科）	
15		1	総括	

履修者へのコメント
・

テキスト
・PT・OTのための画像診断マニュアル（医学教育出版）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神医学	講義・演習	後 期	OT1年	1 単位	30時間	伊藤剛

教育目標	【一般目標】 国家試験合格を念頭に置いて、精神医学全般について基礎事項を学び、 各精神疾患を理解することができる。 【行動目標】 精神疾患を科学的・医学的視点から理解することで、ともすれば陥ってしまうこともある 偏見を排除し、公正な視点、及び態度を以て精神疾患罹患者に相対する技術を修得する。
成績評価方法	・試験の評点により評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月2日(水)	1	オリエンテーション／精神医学とは	伊藤剛
2		2	統合失調症①	
3	9月9日(水)	1	統合失調症②	
4		2	気分障害①	
5	9月16日(水)	1	気分障害②	
6		2	心身症	
7	9月23日(水)	1	老年期精神障害	
8		2	摂食障害	
9	9月30日(水)	1	神経症	
10		2	睡眠障害	
11	10月7日(水)	1	てんかん	
12		2	人格障害	
13	10月14日(水)	1	薬物・アルコール依存①	
14		2	薬物・アルコール依存②	
15	10月21日(水)	1	児童期・青年期の精神障害	
15		2	まとめ	

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・『標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版』（医学書院）

(参考書)
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児科学	講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	山崎康幸

教育目標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、徴候、診断と治療を学ぶ。 【行動目標】 ①疫学、予後について説明できる。 ②病因、症候について説明できる。 ③検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる。 ④小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。
成績評価方法	期末試験や小テストなどから総合的に勘案する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月1日(火)	1	小児科学概論、新生児・未熟児疾患	山崎康幸
2	9月 8日(火)	1	新生児・未熟児疾患	
3	9月 15日(火)	1	小テスト①、先天異常と遺伝病	
4	9月22日(火)	1	神経・筋・骨系疾患①	
5	9月29日(火)	1	神経・筋・骨系疾患②	
6	10月6日(火)	1	小テスト②、循環器疾患	
7	10月 13日(火)	1	呼吸器疾患	
8	10月20日(火)	1	感染症	
9	10月27日(火)	1	消化器疾患	
10	11月 3日(火)	1	小テスト③、内分泌・代謝疾患	
11	11月10日(火)	1	血液疾患、免疫	
12	11月17日(火)	1	腎・泌尿器疾患	
13	11月 24日(火)	1	小テスト④、腫瘍疾患	
14	12月1日(火)	1	重症心身障害児	
15	12月8日(火)	1	その他疾患	

履修者へのコメント
・小児科学は内科学の勉強にもつながります。しっかり知識を深めていきましょう。

テキスト
・標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 小児科学　第5版　（医学書院）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年医学	講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	宮下雅史

教育目標	【一般目標】 医療の面からみた高齢者の特徴を理解する。 【行動目標】 老化に伴う身体の形態的、機能的変化について述べることができる。 高齢者に多い循環器疾患、神経疾患、整形外科疾患を挙げることができる。 ４大認知症それぞれの特徴を述べることができる。
成績評価方法	筆記試験の成績、授業態度で総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月10日(金)	4	老年医学とは（ガイダンス、概論）	宮下雅史
2	4月17日(金)	4	高齢者の解剖学的、生理学的特徴	
3	4月24日(金)	4	循環器疾患１	
4	5月8日(金)	4	循環器疾患２	
5	5月15日(金)	4	呼吸器疾患	
6	5月22日(金)	4	復習（確認テスト）	
7	5月29日(金)	4	神経疾患１	
8	6月 5日(金)	4	神経疾患２	
9	6月12日(金)	4	認知症１	
10	6月19日(金)	4	認知症２	
11	6月26日(金)	4	復習（確認テスト）	
12	7月 3日(金)	4	整形外科疾患	
13	7月10日(金)	4	高齢者に多いその他の疾患	
14	7月17日(金)	4	復習（循環器・神経系）	
15	7月24日(金)	4	総復習（確認テスト）	

履修者へのコメント
・１年次で学習した内科学、神経内科学、整形外科学、小児科学の知識を確認しながら、高齢者の医療的問題について勉強しましょう。

テキスト
・標準理学療法学・作業療法学　老年医学　第4版（医学書院）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
予防医学と公衆衛生	講義	前期	0T1年	1単位	15時間	仲 眞美子

教育目標	【一般目標】 疾病予防と健康増進の重要性を理解し、専門職としての自分の役割を見いだせる 【行動目標】 ・疾病予防、健康増進の概念、健康づくり施策、健康サービスを説明できる ・公衆衛生分野にをける自分の役割をを説明できる ・ライフステージに合わせた健康問題の対処法を考えられる
成績評価方法	定期試験、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月8日(水)	4	総論　ガイダンス、公衆衛生学入門、薬物乱用	仲 眞美子
2	4月15日(水)	4	総論　ライフスタイルと健康サービス	
3	4月22日(水)	4	総論　生活習慣病予防	
4	5月 6日(水)	4	総論　疫学と衛生統計	
5	5月13日(水)	4	総論　ライフサイクルと健康サービス	
6	5月20日(水)	4	総論　生活環境と疾病コントロール	
7	5月27日(水)	4	総論　チームで取り組むヘルスプロモーション	
8	6月 3日(水)	4	総論　公衆衛生とリハビリテーション	

履修者へのコメント
・テキスト必携
　・理解を深めるために、ノートを活用して予習・復習をする
　・・授業中のメモとディスカッションは積極的に

テキスト
・医療職のための公衆衛生・社会医学（テコム）　著　：長谷川友紀、長谷川敏彦、松本邦愛

参考書
・国民衛生の動向（厚生労働統計協会）　編：厚生労働統計協会

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション医学	講義・演習	前 期	OT2年	1単位	30時間	吉川惠

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医学の目的と基本的な知識を理解する 【行動目標】 リハビリテーションの主な対象疾患を説明できる
成績評価方法	提出物などより総合的に判断する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月14日(木)	1	リハビリテーション医学とは、障害の評価	吉川惠
2	5月27日(水)	3	脳疾患	
3	6月11日(木)	1	リウマチとその近縁疾患	
4	6月24日(水)	3	脊髄損傷	
5		4	小児疾患	
6	7月1日(水)	3	神経筋疾患	
7		4	末梢神経障害	
8	7月15日(水)	3	関節疾患	
9	7月22日(水)	3	外傷	
10		4	脊椎疾患	
11	7月27日(月)	4	内部疾患	
12	7月28日(火)	1	末梢循環障害	
13		2	切断	
14	7月29日(水)	1	がん・悪性腫瘍	
15		2	その他の疾患（熱傷など）	

(履修者へのコメント)

(テキスト)

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と薬理	講義	前期	0T1年	1単位	15時間	山崎洋次

教育目標

【一般目標】
リハビリテーションに関連する疾患における薬物・薬理の基礎的な知識を身に付ける。

【行動目標】
・薬物動態、薬理に関する基礎的な知識について説明することができる。
・各疾患における代表薬物、作用機序等について説明することができる。

成績評価方法

定期試験で判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	6月18日(木)	3	薬物動態	山崎洋次
2	6月25日(木)	3	薬物の作用機序	
3	7月 2日(木)	3	炎症、アレルギーに関する薬理	
4	7月9日(木)	3	感染症に関する薬理	
5	7月16日(木)	1	中枢神経系に関する薬理	
6		2	末梢神経系に関する薬理	
7	7月23日(木)	1	循環器疾患の薬理	
8		2	精神疾患の薬理	

履修者へのコメント
・パワーポイント資料で講義を進める。
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。

テキスト☒シンプル薬理学　改訂第5版　（南江堂）☐

参考書☒

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
救命救急の基礎	講義	前期	OT1年	1単位	15時間	山崎洋次

教育目標

【一般目標】・救急医療の特徴を理解できる.
・救急患者の特徴を理解し，救急看護に求められる予測性をもった病態アセスメントができる.
・災害医療の特徴を理解し，自己の役割やすべきことを明確にできる.

【行動目標】
1）救急・災害医療体制の基本骨格を学習する.
2）救急医療システムの全体像を理解し，特にプレホスピタルの重要性を説明できる.
3）主要な疾患の病態を知る.
4）多様な救急疾患の重症度と緊急度を把握できる.
5）救急疾患の診断と治療法について述べることができる．特に心肺脳蘇生について.

成績評価方法

・定期試験・レポートなどで総合的に判定する.
・院外で開催されている１次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習・上級救命講習など）への出席を強く推奨する.

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	6月 4日(木)	4	救命救急１　救急システム・救急外来で扱う疾患	山崎洋次
2	6月18日(木)	4	救命救急２　死に至るメカニズム	
3	6月25日(木)	4	救命救急３　１次救命処置(BLS)その１	
4	7月 2日(木)	4	救命救急３　１次救命処置(BLS)その２	
5	7月9日(木)	4	救命救急５　内因性救急疾患	
6	7月16日(木)	3	救命救急６　外因性救急疾患	
7	7月23日(木)	3	救命救急７　災害医療とトリアージ	
8		4	救命救急８　熱傷のリハビリテーション・てんかんと意識消失	

履修者へのコメント
・各自、１次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習など）への参加を強く推奨する。参加方法については講義中に説明する.

テキスト
・指定テキストはない。各講義で資料プリントを配布する。

参考書
・写真と動画でわかる「一次救命処置」改訂３版（発売元：学研プラス）監修：小林正直・石見 拓

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と栄養	講義	前期	0T1年	1単位	15時間	本多友美恵

教育目標	【一般目標】 『人体と栄養』では「栄養の意義」・「栄養素の働き」・「疾患別栄養療法」「ライフステージ別の栄養」について学ぶ。コメディカルとしての知識のみならず、個々の人として望ましい食生活のために何をどれだけ摂取したらいいか、そして健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を正しく理解し、健康な生涯を確保するために適切な食事とはどうあるべきなのかを中心に学習する。 【行動目標】 自身の健康のために望ましい食生活を実践できるようになる。また将来医療現場で患者の栄養状態、リハビリにおける栄養の重要性を理解した医療行為が行なえるよう、知識を深める。
成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月 7日(木)	3	栄養とは	本多友美恵
2		4	活動と栄養	
3	5月14日(木)	3	栄養素の基礎知識①	
4		4	栄養素の基礎知識②	
5	5月21日(木)	3	代謝の仕組み	
6		4	症状別栄養	
7	5月28日(木)	3	ライフステージ別栄養	
8		4	運動と栄養	

履修者へのコメント
・

テキスト
・栄養の基本がわかる図解事典（成美堂出版）

参考書
・

Ⅰ．基礎分野
　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解

Ⅱ．専門基礎分野
　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達
　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念

Ⅲ．専門分野
　ⅰ）基礎作業療法学
　ⅱ）作業療法管理学
　ⅲ）作業療法評価学
　ⅳ）作業療法治療学
　ⅴ）地域作業療法学
　ⅵ）臨床実習

Ⅳ．選択必修専門分野
　ⅰ）作業療法治療学特論

Ⅱ
専門基礎分野

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

4単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
職業関連リハビリテーション学	講義	前期	0T1年	1単位	15時間	土居義典

教育目標	【一般目標】 作業療法士として職業リハビリテーションへの理解を深める。 【行動目標】 地域における職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる。
成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月10日(金)	3	地域における職業リハビリテーションとは	土居義典
2		4	職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは	
3	4月17日(金)	3	障害者就労支援とは	
4		4	共生社会に向けた就労支援	
5	4月24日(金)	3	障害者就労支援の共通目標	
6		4	障害者就労支援のポイント	
7	5月8日(金)	3	役割分担と連携	
8		4	障害特性を踏まえた支援	

履修者へのコメント
・

テキスト
・

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション概論	講 義	前 期	OT1年	1単位	30時間	熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 リハビリテーションを正しく理解する。 リハビリテーション本来の理念を歴史的背景から学習しリハビリテーション医療の対象や関わる職種、評価・治療手段を理解する。 【行動目標】 ・リハビリテーションの定義と目的を説明することができる。 ・リハビリテーションに関わる各知識を説明することができる。
成績評価方法	提出物・定期試験により総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月6日(月)	1	リハビリテーションとは？（オリエンテーション含む）	熊谷淳平
2	4月13日(月)	1	リハビリテーションの定義と目的	
3	4月20日(月)	1	健康、疾病、障害の定義と分類	
4	5月11日(月)	1	ノーマライゼーションとIL運動	
5	5月18日(月)	1	障害構造（ICD、ICIDH、ICFについて）	
6	5月25日(月)	1	障害と心理（障害受容について）	
7	6月1日(月)	1	日常生活活動と生活の質（ADLとQOLについて）	
8	6月8日(月)	1	リハビリテーションの領域①	
9	6月15日(月)	1	リハビリテーションの領域②	
10	6月22日(月)	1	リハビリテーションの専門職とその役割（チーム医療について）	
11	6月29日(月)	1	医療制度（リハビリテーションに関わる法制度について）	
12	7月6日(月)	1	リハビリテーションの専門性について（医の倫理について）	
13	7月20日(月)	1	グループワーク①	
14	7月27日(月)	1	グループワーク②	
15		2	総括	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・必要に応じてプリントを配布する

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域マネージメント論	講義	前期	0T2年	1単位	15時間	柘植哲洋

教育目標

【一般目標】
1.地域リハビリテーションの概念や地域における作業療法士の役割について理解できる。
2.社会保障制度（介護保険制度・障害者総合支援法）について学び、支援に必要な知識を習得する。
3.地域包括ケアシステムの基本的な考え方について学び、自助・互助の必要性と多職種連携の重要性について理解できる。　　4.生活行為向上マネジメントについて学び、理解する。
【行動目標】
1.地域リハビリテーションの定義や考え方、その中での作業療法士の役割について述べることができる。
2.各制度特に、介護認定の流れを把握し、介護度についての特徴、違いを述べることができる。
3.地域包括ケアシステムについての考え方や他職種の役割について説明ができる。
4.生活行為向上マネジメントツールを用いたマネジメントの進め方について説明ができる。

成績評価方法

″定期試験、調査課題のプレゼンテーション、提出物などにより総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月8日(水)	1	地域リハビリテーションの概要	柘植哲洋
2		2	社会保障制度・介護保険制度（介護度、介護認定の流れ）、障害者総合支援法	
3	4月15日(水)	1	地域作業療法のステージ：各領域での支援内容と関わり方①	
4		2	地域作業療法のステージ：各領域での支援内容と関わり方②	
5	4月22日(水)	1	地域包括ケアシステムについて、地域支援事業（介護予防事業）	
6		2	地域に求められる作業療法士の役割：地域ケア会議など、調査課題提示	
7	5月 6日(水)	1	各市町村の社会資源について（調査結果のプレゼンテーション）	
8		2	生活行為向上マネジメント	

履修者へのコメント
・授業形式は講義中心とする。講義終盤で、各自に調査課題を提示しプレゼンテーションして頂く予定である。

テキスト
・標準作業療法学　地域作業療法学　第3版

参考書
・事例で学ぶ生活行為向上マネジメント（日本作業療法士協会編著、医歯薬出版）

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習	演 習	通 年	0T1年	1 単位	45時間	オムニバス

教育目標	多職種連携協働の理念について、保健・医療・福祉の歴史的背景と現状を概観し考えを深めることができる。チーム医療に携わる各職種の理解を通じて，その具体的な役割を認識し、多職種連携の重要性について説明することができる。
成績評価方法	提出物などにより総合的に判断する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月 2日(土)	2	多職種連携１（医師とその業務）	
2	5月16日(土)	2	多職種連携１（医師とその業務）②	
3	5月23日(土)	2	多職種連携２（医の倫理）	
4	5月30日(土)	2	多職種連携３（チーム医療、IPWとは）	
5	6月 6日(土)	2	多職種連携４（リハにおける多職種連携の実際）	
6	6月13日(土)	2	看護師の専門性と役割	
7	6月20日(土)	2	言語聴覚士の専門性と役割	
8	6月27日(土)	2	義肢装具士の専門性と役割	
9	7月 4日(土)	2	臨床心理士の専門性と役割	
10	7月11日(土)	2	管理栄養士の専門性と役割	
11	7月18日(土)	2	介護支援専門員の専門性と役割	
12	7月25日(土)	2	精神保健福祉士の専門性と役割	
13	8月 8日(土)	2	IPW（専門職連携）における実践課題	
14	10月 3日(土)	2	グループワーク①	
15	10月10日(土)	2	グループワーク②	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習	演 習	通 年	0T1年	1 単位	45時間	オムニバス

教育目標	多職種連携協働の理念について、保健・医療・福祉の歴史的背景と現状を概観し考えを深めることができる。チーム医療に携わる各職種の理解を通じて，その具体的な役割を認識し、多職種連携の重要性について説明することができる。
成績評価方法	提出物などにより総合的に判断する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	10月31日(土)	2	グループワーク③	
17	11月 7日(土)	2	グループワーク④	
18	11月14日(土)	2	中間発表	
19	11月28日(土)	2	グループワーク⑤	
20	12月 5日(土)	2	グループワーク⑥	
21	1月 9日(木)	2	最終発表①	
22	1月16日(木)	2	最終発表②	
23	1月16日(木)	4	総括	

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・

(参考書)
・

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　**ⅰ）基礎作業療法学** 　ⅱ）作業療法管理学 　ⅲ）作業療法評価学 　ⅳ）作業療法治療学 　ⅴ）地域作業療法学 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法治療学特論	Ⅲ 専門分野 基礎作業療法学 6単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法概論	講義・演習	前 期	OT1年	1単位	30時間	中山奈保子

教育目標	【一般目標】 ・作業療法の歴史の概要や定義を理解する ・作業療法士となるために最低限必要な知識・理論を理解する 【行動目標】 ・作業療法の歴史の概要や定義を説明することができる ・作業療法士となるために最低限必要な知識・理論を説明することができ、活用できるようになる
成績評価方法	・定期試験、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月6日(月)	2	作業療法の活動内容	中山奈保子
2	4月13日(月)	2	作業療法の歴史	
3	4月20日(月)	2	作業療法の定義	
4	5月11日(月)	2	ADL・ICF	
5	5月18日(月)	2	作業療法の対象①	
6	5月25日(月)	2	作業療法の対象②	
7	6月1日(月)	2	作業療法の理論①	
8	6月8日(月)	2	作業療法の理論②	
9	6月15日(月)	2	作業療法の管理	
10	6月22日(月)	2	Activity	
11	6月29日(月)	2	人間作業モデル	
12	7月6日(月)	2	制度・法律	
13	7月20日(月)	2	エビデンス	
14	7月27日(月)	3	症例検討　～グループワーク～	
15		4	症例検討　～グループ発表～	

（履修者へのコメント）
作業療法概論は、作業療法士とはどのような職業なのかをより深く理解する重要な科目です。幅広く活躍することができる作業療法士を知ることで、将来どのような作業療法士になりたいかを決める要素にもなると思います。
国家試験にもよく出題される内容もあるので、頑張っていきましょう！

（テキスト）
・作業療法ゴールドマスターテキスト　作業療法概論　編纂：里村恵子　（メジカルビュー社）
・作業療法実践の理論　原著第４版　著：ギャーリーキールホフナー　（医学書院）

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法理論	講 義	前 期	OT2年	１単位	15時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 ・作業療法における理論について概観し，理解を深める 【行動目標】 ・作業療法理論の概観を説明できる ・作業療法の代表的な実践モデルについて説明できる ・作業療法の代表的なモデルを模擬的に実践し，活用することができる
成績評価方法	・定期試験６０点以上 ・提出物

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月10日(金)	3	作業療法理論の概観	三橋力也
2	4月17日(金)	3	意図的関係モデル	
3	4月24日(金)	3	運動コントロールモデル	
4	5月8日(金)	3	感覚統合モデル	
5	5月15日(金)	3	機能的グループモデル	
6	5月22日(金)	3	生体力学モデル	
7	5月29日(金)	3	人間作業モデル	
8	6月5日(金)	3	認知モデル	

(履修者へのコメント)
・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

(テキスト)
・作業療法実践の理論　原書第4版　医学書院

(参考書)
・特になし

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法	講義・演習	後 期	OT2年	1 単位	30時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 ・作業療法で用いられる研究手法について学ぶ．シングルシステムデザインの方法を系統的に学び，実習後の症例まとめが円滑に行えるようにする 【行動目標】 ・量的研究と質的研究の違いを説明できる ・統計的手法について説明できる ・シングルシステムデザインの方法について説明できる
成績評価方法	・定期試験60点以上

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	10月28日(水)	3	研究とは何をするのか	三橋力也
2		4	研究の類型と論文構成①	
3	11月4日(水)	3	研究の類型と論文構成②	
4		4	研究とEBMの立証	
5	11月11日(水)	3	統計解析にかかわる基礎知識①	
6		4	統計解析にかかわる基礎知識②	
7	11月18日(水)	3	質的研究にかかわる基礎知識①	
8		4	質的研究にかかわる基礎知識②	
9	11月25日(水)	3	研究と倫理	
10		4	シングルシステムデザインとは	
11	12月2日(水)	3	シングルシステムデザインの基本的手順	
12		4	シングルシステムデザインの基本的なデザイン	
13	12月9日(水)	3	シングルシステムデザインの複雑なデザイン	
14		4	シングルシステムデザインの効果判定の方法	
15	12月16日(水)	3	シングルシステムデザインの長所と短所	

(履修者へのコメント)
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること

(テキスト)
・標準作業療法学　作業療法研究法　医学書院

(参考書)
・特になし

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法演習	演 習	後 期	OT3年	1 単位	45時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 ・作業療法で用いられる研究手法について学ぶ．シングルシステムデザインの方法を系統的に学び，実習後の症例まとめが円滑に行えるようにする 【行動目標】 ・量的研究と質的研究の違いを説明できる ・統計的手法について説明できる ・シングルシステムデザインの方法について説明できる
成績評価方法	・定期試験60点以上

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	11月5日(木)	1	量的研究テーマの選定	三橋力也
2		2	量的研究デザインの作成１	
3	11月10日(火)	1	量的研究デザインの作成２	
4		2	量的研究デザインの作成３	
5	11月12日(木)	1	データの収集	
6		2	データのまとめ	
7	11月17日(火)	1	データの解釈・考察１	
8		2	データの解釈・考察２	
9	11月19日(木)	1	報告書の作成１	
10		2	報告書の作成２	
11	11月24日(火)	1	発表１	
12		2	発表２	
13	11月26日(木)	1	質的研究テーマの選定	
14		2	質的研究デザインの作成１	
15	12月1日(火)	1	質的研究デザインの作成２	

(履修者へのコメント)
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること

(テキスト)
・標準作業療法学　作業療法研究法　医学書院

(参考書)
・特になし

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法演習	演 習	後 期	OT3年	1 単位	45時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 ・作業療法の研究方法を理解し、研究の一連の流れを体験する。 【行動目標】 ・量的研究の方法について説明できる。 ・質的研究の方法について説明できる。
成績評価方法	・試験および講義中に行うグループワーク参加度、提出課題の内容により総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	12月1日(火)	2	データの収集	三橋力也
17	12月3日(木)	1	データのまとめ	
18		2	データの解釈・考察１	
19	12月8日(火)	1	データの解釈・考察２	
20		2	報告書の作成１	
21	12月10日(木)	1	報告書の作成２	
22		2	発表１	
23	12月15日(火)	1	発表２	

(履修者へのコメント)
・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

(テキスト)
・特になし、必要に応じて資料を配布する

(参考書)
・標準作業療法学　作業療法研究法　医学書院

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学	講義・演習	後 期	0T1年	1 単位	30時間	熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 作業療法における作業の枠組みを理解し、模擬的に治療として適応することができる 【行動目標】 ・作業療法における作業を説明することができる ・各作業の工程を理解し、説明することができる ・各工程を分析し、治療として適応することの意義を説明できる
成績評価方法	学期末試験や提出物により総合的に勘案する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	8月31日(月)	2	オリエンテーション／作業の意味と範囲	熊谷淳平
2	9月7日(月)	2	作業と環境	
3	9月28日(月)	2	ライフスタイルと作業の特徴（作業の発達）	
4	10月5日(月)	2	作業バランス	
5	10月19日(月)	2	作業分析の意義（包括的作業分析と限定的作業分析）	
6	10月26日(月)	2	工程分析①	
7	11月9日(月)	2	工程分析②	
8	11月16日(月)	2	運動機能的作業分析	
9	11月23日(月)	2	精神・心理的作業分析	
10	11月30日(月)	1	作業の治療的適応①	
11		2	作業の治療的適応②	
12	12月7日(月)	1	模擬実践／グループワーク①	
13		2	模擬実践／グループワーク②	
14	12月15日(火)	1	模擬実践／グループワーク③	
15	12月17日(木)	3	人と作業と健康／まとめ	

（履修者へのコメント）
・自身の身体を使い分析を行っていくため、各自動きやすい服装、また各種作業も導入していく予定のため汚れてもよい服装で臨むこと。

（テキスト）
・作業療法ゴールドマスターテキスト　作業学　長崎重信著　（メジカルビュー社）

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学演習	演 習	後 期	0T1年	1 単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 作業療法に用いられる各作業活動の製作工程を理解し、作業分析を行うことができる また、実際に治療への導入と効果について理解できる 【行動目標】 1. 製作課題の工程を説明できる 2. 製作に必要な道具・材料を列挙でき、使用方法を説明できる 3. 各工程の留意事項を列挙できる 4. 与えられた課題を完成することができる 5. 製作を通して、その作業分析を行い治療的意義を理解する
成績評価方法	提出物などにより総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	8月31日(月)	3	オリエンテーション（作業分析について）	桜井淳
2		4	革細工①（スタンピング法）	
3	9月7日(月)	3	革細工②（スタンピング法）	
4		4	革細工③（スタンピング法）	
5	9月28日(月)	3	革細工④（カービング法）	
6		4	革細工⑤（カービング法）	
7	10月5日(月)	3	革細工⑥（カービング法）	
8		4	革細工⑦（カービング法）	
9	10月19日(月)	3	マクラメ細工①	
10		4	マクラメ細工②	
11	10月26日(月)	3	マクラメ細工③	
12		4	マクラメ細工④	
13	11月9日(月)	3	貼り絵①（集団作業）	
14		4	貼り絵②（集団作業）	
15	11月16日(月)	3	貼り絵③（集団作業・発表）	

（履修者へのコメント）
・実技が主体となるので，各自動きやすい服装で参加すること．また汚れることも多いため，
　汚れてよい服装やエプロンなどは各自で判断し用意すること．
・製作工程の進行具合により、実習となる時間もあるため、担当教員に確認すること
・時間内で課題が終了しない場合，多目的実習室が空いている時間に限り，
　各自で課題作成に取り組んでよいものとするが，その場合安全面への配慮から
　必ず担当教員への報告を義務とする．

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学演習	演 習	後 期	0T1年	1 単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 作業療法に用いられる各作業活動の製作工程を理解し、作業分析を行うことができる また、実際に治療への導入と効果について理解できる 【行動目標】 1. 製作課題の工程を説明できる 2. 製作に必要な道具・材料を列挙でき、使用方法を説明できる 3. 各工程の留意事項を列挙できる 4. 与えられた課題を完成することができる 5. 製作を通して、その作業分析を行い治療的意義を理解する
成績評価方法	提出物などにより総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	11月24日(火)	3	籐細工①	桜井淳
17		4	籐細工②	
18	11月30日(月)	3	籐細工③	
19		4	籐細工④	
20	12月7日(月)	3	グループによる製作①	
21		4	グループによる製作②	
22	12月14日(月)	3	グループによる製作③	
23		4	グループによる製作④	

(履修者へのコメント)
・実技が主体となるので，各自動きやすい服装で参加すること．また汚れることも多いため，
　汚れてよい服装やエプロンなどは各自で判断し用意すること．
・製作工程の進行具合により、実習となる時間もあるため、担当教員に確認すること
・時間内で課題が終了しない場合，多目的実習室が空いている時間に限り，
　各自で課題作成に取り組んでよいものとするが，その場合安全面への配慮から
　必ず担当教員への報告を義務とする．

(テキスト)
・

(参考書)
・

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　**ⅱ）作業療法管理学** 　ⅲ）作業療法評価学 　ⅳ）作業療法治療学 　ⅴ）地域作業療法学 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法治療学特論	Ⅲ 専門分野 基礎作業療法学 6単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法運営管理	講 義	後 期	0T3年	２単位	30時間	熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 病院や施設における作業療法部門の組織体制を整理し、その位置づけと運営方法について理解できる。 また診療報酬のしくみや施設申請に関する規定、その取り組み方を理解できる。 作業療法士としての職業倫理について理解できる。 【行動目標】 ・作業療法と関連する法律・制度を理解する ・作業療法の管理運営について理解する ・作業療法の職業倫理について理解する
成績評価方法	・提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	11月5日(木)	3	理学療法士と作業療法士法および職業倫理について	熊谷淳平
2		4	グループワークおよび検討会	
3	11月10日(火)	3	チーム医療と作業療法業務の運営管理について	
4		4	グループワークおよび検討会	
5	11月12日(木)	3	身体障害領域における認可基準と作業療法運営管理	
6		4	グループワークおよび検討会	
7	11月17日(火)	3	精神障害領域における認可基準と作業療法運営管理	
8		4	グループワークおよび検討会	
9	11月19日(木)	3	その他領域における認可基準と作業療法運営管理	
10		4	グループワークおよび検討会	
11	11月24日(火)	3	作業療法士の生涯教育について	
12		4	グループワークおよび検討会	
13	11月26日(木)	3	作業療法部門の開設（グループワーク）	
14		4	グループワークおよび発表会	
15	12月1日(火)	3	発表会と総括	

（履修者へのコメント）
臨床現場に出た際に必要な作業療法の職業倫理についての講義ですので、実習での経験を基に臨んでください

（テキスト）

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　ⅱ）作業療法管理学 　**ⅲ）作業療法評価学** 　ⅳ）作業療法治療学 　ⅴ）地域作業療法学 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法治療学特論	Ⅲ 専門分野 基礎作業療法学 6単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学Ⅰ	講義・演習	前 期	OT2年	1単位	30時間	吉川恵

教育目標	1．一般目標 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告する事ができる。 2．個人目標 ・各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 ・各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 ・各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。
成績評価方法	提出物、実技試験、筆記試験で総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月7日(火)	3	面接法・観察法	吉川恵
2		4	意識,バイタルサインの測定,臨床検査値の読み方	
3	4月14日(火)	3	形態計測	
4		4	形態計測	
5	4月21日(火)	3	関節可動域測定	
6		4	関節可動域測定	
7	4月28日(火)	3	関節可動域測定	
8		4	関節可動域測定	
9	5月12日(火)	3	関節可動域測定	
10		4	筋力検査	
11	5月14日(木)	1	筋力検査	
12		2	筋力検査	
13	5月19日(火)	3	筋力検査	
14		4	筋力検査	
15	5月21日(木)	3	筋力検査	

（履修者へのコメント）
・実技授業のため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリー類は全て外すこと。
　髪の長い学生は束ねて授業に参加すること。
・予習・復習を充分に行うこと。

（テキスト）
・　標準作業療法学　作業療法評価学　第3版　（医学書院）

（参考書）
・　新・徒手筋力検査法　（共同医書出版）　・　ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学Ⅱ	講義・演習	前 期	OT2年	1単位	30時間	吉川恵

教育目標	1．一般目標 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告する事ができる。 2．個人目標 ・各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 ・各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 ・各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。
成績評価方法	提出物、実技試験、筆記試験で総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月19日(火)	3	感覚検査	吉川恵
2		4	感覚検査	
3	5月21日(木)	1	反射検査	
4		2	反射検査	
5	5月26日(火)	3	姿勢反射検査	
6		4	姿勢反射検査	
7	5月28日(木)	1	筋緊張検査	
8		2	協調性検査	
9	6月2日(火)	3	協調性検査	
10		4	脳神経検査	
11	6月4日(木)	1	脳神経検査	
12		2	摂食・嚥下検査	
13	6月9日(火)	3	上肢機能検査	
14		4	上肢機能検査	
15	6月11日(木)	2	QOL、興味、役割の評価	

(履修者へのコメント)
・実技授業のため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリー類は全て外すこと。
　髪の長い学生は束ねて授業に参加すること。
・予習・復習を充分に行うこと。

(テキスト)
・　標準作業療法学　作業療法評価学　第3版　(医学書院)

(参考書)
・　新・徒手筋力検査法　(共同医書出版)　・　ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能作業療法評価学Ⅰ	講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	福田均

教育目標	【一般目標】 ・精神医療，保健，福祉の歴史と現在の流れについて理解する。 ・精神障害領域における作業療法士の役割について理解する。 ・各精神障害に対する作業療法評価法について理解および習得する。 ・精神医療における歴史について、自分なりの解釈で意見を述べられる。 ・精神障害の特性や、精神障害によって生じる“生活のしづらさ”を理解する。 ・精神障害に対して実施する作業療法の評価を理解し、実践できる。 【行動目標】 ・精神障害における評価法を積極的に理解し、実践できる。
成績評価方法	授業態度、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月10日(金)	1	精神科作業療法とは何か、歴史、現状と課題	福田均
2	4月17日(金)	1	精神科作業療法士の役割と働く場	
3	4月24日(金)	1	精神科作業療法に関連する法規	
4	5月8日(金)	1	精神科作業療法に関連する法規	
5	5月15日(金)	1	精神科作業療法の評価の流れ	
6	5月22日(金)	1	観察技法	
7	5月29日(金)	1	観察技法	
8	6月 5日(金)	1	面接技法	
9	6月12日(金)	1	面接技法	
10	6月19日(金)	1	面接演習・記録の書き方(SOAP)	
11	6月26日(金)	1	記録の書き方(SOAP)　フィードバック	
12	7月 3日(金)	1	その他の評価法(箱作り法)	
13	7月10日(金)	1	その他の評価法(ベック抑うつ尺度・LASMI)	
14	7月17日(金)	1	その他の評価法(BDI-Ⅱ、REHAB)	
15	7月24日(金)	1	その他の評価法(COPM)　まとめ	

履修者へのコメント
・講義の進捗状況により、一部内容変更の可能性あり

テキスト
・作業療法学　ゴールドマスターテキスト　精神障害作業療法学　改訂第2版（ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ）

参考書
・精神障害と作業療法　三輪書店　山根　寛　著

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能障害作業療法評価学Ⅱ（高次脳）	講義・演習	前 期	OT2年	1 単位	30時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 ・作業療法臨床における高次脳機能障害の評価技法について理解する 【行動目標】 ・高次脳機能の各機能を説明することができる ・高次脳機能の各機能障害に対応する評価法を説明することができる ・高次脳機能の各機能障害に対応する評価法を適切に選択することができる ・高次脳機能の評価結果を適切に判断し，説明することができる ・高次脳機能障害の観察評価時のポイントを説明することができる
成績評価方法	・定期試験６０点以上 ・提出物 ・授業内小テスト結果

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月10日(金)	2	高次脳機能とその発達	三橋力也
2	4月17日(金)	2	脳解剖と画像診断	
3	4月24日(金)	2	評価と治療の流れ，多職種連携と作業療法士の役割	
4	5月8日(金)	2	注意障害	
5	5月15日(金)	2	記憶障害	
6	5月22日(金)	2	失語	
7	5月29日(金)	2	失行	
8	6月5日(金)	2	失認（対象認知の障害）	
9	6月12日(金)	2	半側空間無視	
10	6月19日(金)	2	遂行機能障害	
11	6月26日(金)	2	社会的行動障害	
12	7月3日(金)	2	認知症	
13	7月10日(金)	2	高次脳機能書外支援事業	
14	7月17日(金)	2	高次脳機能障害と就労支援	
15	7月24日(金)	2	高次脳機能障害と運転	

（履修者へのコメント）
・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

（テキスト）
・標準作業療法学　高次脳機能作業療法学　医学書院

（参考書）
・標準作業療法学　作業療法評価学　第2版　（医学書院）
・高次脳機能障害の作業療法　三輪書店　鎌倉矩子・本多留美著

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能作業療法評価学演習	演 習	前 期	OT2年	1単位	45時間	吉川恵

教育目標	1．一般目標 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告する事ができる。 2．個人目標 ・各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 ・各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 ・各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。
成績評価方法	提出物、筆記試験、実技試験で総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	6月16日(火)	3	脳血管障害・頭部外傷の評価	吉川恵
2		4	脳血管障害・頭部外傷の評価	
3	6月18日(木)	1	脳血管障害・頭部外傷の評価	
4		2	脳血管障害・頭部外傷の評価	
5	6月23日(火)	3	脊髄損傷の評価	
6		4	脊髄損傷の評価	
7	6月25日(木)	1	脊髄損傷の評価	
8		2	姿勢分析	
9	6月30日(火)	3	姿勢分析	
10		4	姿勢分析	
11	7月2日(木)	1	動作分析	
12		2	動作分析	
13	7月7日(火)	3	動作分析	
14		4	ICF	
15	7月9日(木)	1	ICF	

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・

(参考書)
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能作業療法評価学演習	演 習	前 期	OT2年	1単位	45時間	吉川恵 高梨翼

教育目標	1．一般目標 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告する事ができる。 2．個人目標 ・各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 ・各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 ・各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。
成績評価方法	提出物、筆記試験、実技試験で総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	7月9日(木)	2	症例検討	吉川恵
17	7月14日(火)	3	症例検討	
18		4	症例検討	
19	7月15日(水)	1	症例検討	
20		2	症例検討	
21	7月21日(火)	1	症例検討	
22		2	症例検討	
23	7月22日(水)	1	症例検討	
24		2	症例検討	

(履修者へのコメント)
・実技授業のため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリー類は全て外すこと。
　髪の長い学生は束ねて授業に参加すること。
・予習・復習を充分に行うこと。

(テキスト)
・　標準作業療法学　作業療法評価学　第3版　(医学書院)

(参考書)
・　症例動作分析　(株式会社　ヒューマン・プレス)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能作業療法評価学演習	演 習	前 期	OT2年	1単位	45時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 精神機能作業療法における主要な評価技法（観察・面接・標準化された検査・調査）の習得を目指し、それらの目的とプロセス、実施方法および記録方法を理解する。 【行動目標】 ・精神機能作業療法評価の目的・一般的なプロセスを説明できる。 ・精神機能作業療法における主要な評価技能について、その目的と特徴を説明できる。 ・観察の目的と留意点、方法を説明できる。 ・面接の目的と留意点、方法を説明できる。 ・観察、面接を模擬的に実施し、その内容を記録・報告できる。 ・標準化された検査、調査方法の目的と留意点を説明できる。 ・標準化された検査、調査を模擬的に実施し、その内容を記録・報告できる。
成績評価方法	・本試験（筆記：8割）講義中に行うグループワーク参加度（2割）、提出課題の内容（1割）

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月7日(木)	3	精神機能作業療法評価学の基礎～OT評価実施プロセス～①	高梨翼
2		4	精神機能作業療法評価学の基礎～OT評価実施プロセス～②	
3	5月14日(木)	3	精神機能作業療法における情報収集①	
4		4	精神機能作業療法における情報収集②	
5	5月21日(木)	3	精神機能作業療法における観察法①	
6		4	精神機能作業療法における観察法②	
7	5月28日(木)	3	精神機能作業療法における観察法③	
8		4	精神機能作業療法における観察法④	
9	6月4日(木)	3	精神機能作業療法における面接法①	
10		4	精神機能作業療法における面接法②	
11	6月11日(木)	3	精神機能作業療法における患者情報の整理・記録①	
12		4	精神機能作業療法における患者情報の整理・記録①	
13	6月15日(月)	3	精神機能作業療法における患者情報の整理・記録①	
14		4	精神機能作業療法における患者情報の整理・記録①	
15	6月22日(月)	3	集団における評価①	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能作業療法評価学演習	演 習	前 期	OT2年	1 単位	45時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 精神機能作業療法における主要な評価技法（観察・面接・標準化された検査・調査）の習得を目指し、それらの目的とプロセス、実施方法および記録方法を理解する。 【行動目標】 ・精神機能作業療法評価の目的・一般的なプロセスを説明できる。 ・精神機能作業療法における主要な評価技能について、その目的と特徴を説明できる。 ・観察の目的と留意点、方法を説明できる。 ・面接の目的と留意点、方法を説明できる。 ・観察、面接を模擬的に実施し、その内容を記録・報告できる。 ・標準化された検査、調査方法の目的と留意点を説明できる。 ・標準化された検査、調査を模擬的に実施し、その内容を記録・報告できる。
成績評価方法	・本試験（筆記：8割）講義中に行うグループワーク参加度（2割）、提出課題の内容（1割）

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	6月22日(月)	4	集団における評価②	高梨翼
17	6月29日(月)	3	集団における評価③	
18		4	集団における評価④	
19	7月6日(月)	3	疾患別評価事例①	
20		4	疾患別評価事例②	
21	7月20日(月)	3	疾患別評価事例③	
22		4	疾患別評価事例④	
23	7月27日(月)	3	臨床実習・国家試験対策	

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・

(参考書)
・

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　ⅱ）作業療法管理学 　ⅲ）作業療法評価学 　**ⅳ）作業療法治療学** 　ⅴ）地域作業療法学 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法学治療学特論	Ⅲ 専門分野 作業療法治療学 5単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学	講義	前期	OT2年	2単位	30時間	大場耕一

教育目標

【一般目標】
・身体障害者に対する義肢・装具（スプリント）の基礎を理解する。
・実際に装具（スプリント）の製作を通じて、その有用性や構造を理解する。
　またこれらの装具などを必要とする対象者の障害を理解する。

【行動目標】　講義全内容終了後には、学生は以下のことができるようになる。
・義肢・装具に関する適応の理解と有用性を説明できる。
・自助具の必要性と自作に際するアイデアを想起できる。
・これらの知識に基づいて、臨床現場において治療応用できる。

成績評価方法

・定期試験、提出物、受講状況等により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月8日(水)	3	講義全体のオリエンテーション	大場耕一
2		4	義肢・装具・スプリントを知る（1）	
3	4月22日(水)	3	義肢・装具・スプリントを知る（2）	
4		4	義肢・装具・スプリントを知る（3）：多目的採型法について	
5	5月7日(木)	3	スプリント製作の実際（3）：カックアップスプリント製作	
6		4	スプリント製作の実際（4）：カックアップスプリント製作	
7		5	スプリント製作の実際（5）：カックアップスプリント製作	
8	5月　13日(水)	3	スプリント製作の実際（6）：サムスパイカ製作	
9		4	スプリント製作の実際（7）：サムスパイカ製作	
10		5	スプリント製作の実際（8）：サムスパイカ製作	
11	5月20日(水)	3	義手・義足を知る（1）：切断を理解する	
12		4	義手・義足を知る（2）：ソフトドレッシングの実践	
13		5	義手・義足を知る（3）：ソフトドレッシングの実際	
14	6月3日(水)	3	総括：全体の振り返り	
15		4	補足・期末試験に関するオリエンテーション	
16			（期末試験）	

履修者へのコメント
・講義、もしくは演習の進捗に応じて、変更点などは適宜、講義中に説明します。
　単に知識を増やす事だけではなく、「創る」を通して創造する力を養ってください。

テキスト
・「手のスプリントのすべて　第４版」　矢崎 潔　著　（三輪書店）

参考書
・「作業療法技術学９　義肢装具学」　古川 宏　編　（協同医書出版社）

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論	講 義	前 期	OT2年	２単位	30時間	中山奈保子

教育目標	【一般目標】 作業療法臨床における日常生活評の目的および評価技法について理解する。 【行動目標】 ・日常生活活動、動作の概念について説明できる。 ・日常生活活動、動作の評価について説明し模擬的に実施できる。 ・情報収集、評価結果の統合と解釈について説明、模擬実践できる。
成績評価方法	・本試験（筆記：8割）講義中に行うグループワーク参加度（2割）、提出課題の内容（1割）

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	4月7日(火)	1	オリエンテーション	中山奈保子
2	4月7日(火)	2	ADLの概念と作業療法評価	
3	4月14日(火)	1	標準化された評価法①Barthel Index	
4	4月14日(火)	2	標準化された評価法①Barthel Index	
5	4月21日(火)	1	標準化された評価法②FIM	
6	4月21日(火)	2	標準化された評価法②FIM	
7	4月28日(火)	1	標準化された評価法④高齢者領域のADL評価	
8	4月28日(火)	2	標準化された評価法④高齢者領域のADL評価	
9	5月7日(木)	1	ADL評価の実際～観察・情報収集～	
10	5月7日(木)	2	ADL評価の実際～患者情報の統合・解釈～	
11	5月12日(火)	1	事例検討１	
12	5月12日(火)	2	事例検討２	
13	5月19日(火)	1	臨床実習・国家試験対策	
14	5月19日(火)	2	臨床実習・国家試験対策	
15	5月26日(火)	1	臨床実習・国家試験対策	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論演習	演 習	通 年	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子

教育目標	【一般目標】 ・日常生活（動作）に対する基本的な作業療法の目的、プロセス、実施方法を理解する。 【行動目標】 ・活動別の支援について疾患および領域別に説明し、模擬的に実施できる。 ・模擬症例に対する介入計画を立案し、記録、報告できる。
成績評価方法	・本試験（筆記：8割）講義中に行うグループワーク参加度（2割）、提出課題の内容（1割）

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月26日(火)	2	オリエンテーション	中山奈保子
2	6月2日(火)	1	活動別の支援/食事	
3	6月2日(火)	2	活動別の支援/食事	
4	6月9日(火)	1	活動別の支援/整容	
5	6月9日(火)	2	活動別の支援/整容	
6	6月16日(火)	1	活動別の支援/更衣	
7	6月16日(火)	2	活動別の支援/更衣	
8	6月23日(火)	1	活動別の支援/入浴	
9	6月23日(火)	2	活動別の支援/入浴	
10	6月30日(火)	1	活動別の支援/排泄	
11	6月30日(火)	2	活動別の支援/排泄	
12	7月7日(火)	1	活動別の支援/起居・移動	
13	7月7日(火)	2	活動別の支援/起居・移動	
14	7月14日(火)	1	臨床実習・国家試験対策	
15	7月14日(火)	2	臨床実習・国家試験対策	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論演習	演 習	通 年	0T2年	1単位	45時間	中山奈保子

教育目標	【一般目標】 ・日常生活（動作）に対する基本的な作業療法の目的、プロセス、実施方法を理解する。 【行動目標】 ・活動別の支援について疾患および領域別に説明し、模擬的に実施できる。 ・模擬症例に対する介入計画を立案し、記録、報告できる。
成績評価方法	・本試験（筆記：8割）講義中に行うグループワーク参加度（2割）、提出課題の内容（1割）

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	9月1日(火)	1	活動別の支援/家事動作	中山奈保子
17	9月1日(火)	2	活動別の支援/家事動作	
18	9月8日(火)	1	活動別の支援/買い物・外出	
19	9月8日(火)	2	活動別の支援/買い物・外出	
20	9月15日(火)	1	活動別の支援/交通機関の利用、運転	
21	9月15日(火)	2	活動別の支援/交通機関の利用、運転	
22	9月22日(火)	1	臨床実習・国家試験対策	
23	9月22日(火)	2	臨床実習・国家試験対策	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅰ	講義・演習	後 期	OT2年	1単位	30時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 1.中枢神経疾患の様々な機能障害を治療するために必要な基本的な考え方や基礎技術を理解できる 2.脳血管障害・頭部外傷の病態・障害像を理解できる 3.脳血管障害・頭部外傷の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が理解できる 【行動目標】 1.中枢神経疾患の様々な機能障害を治療するために必要な基本的な考え方や基礎技術を説明できる 2.脳血管障害・頭部外傷の病態・障害像を説明できる 3.脳血管障害・頭部外傷の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が説明できる
成績評価方法	・定期試験60点以上 ・提出物（随時、授業内配布資料提出） ・授業内小テスト

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月1日(火)	3	オリエンテーション（治療方式・インフォームドコンセント・リスク管理）	桜井淳
2		4	関節可動域の維持・拡大	
3	9月8日(火)	3	対象者とセラピストのためのボディメカニズム(動作介助)	
4		4	筋緊張異常とその治療	
5	9月15日(火)	3	協調運動障害とその治療	
6		4	脳血管障害・脳解剖	
7	9月22日(火)	3	脳血管障害・脳の部位別障害	
8		4	脳血管障害・急性期の作業療法	
9	9月29日(火)	3	脳血管障害・治療理論	
10		4	脳血管障害・回復期の作業療法①	
11	10月6日(火)	3	脳血管障害・回復期の作業療法②	
12		4	脳血管障害・回復期の作業療法③	
13	10月13日(火)	3	脳血管障害・生活期の作業療法/脳の可塑性	
14		4	頭部外傷の作業療法	
15	10月20日(火)	3	頭部外傷と高次脳機能機能障害	
15		4	総括	

（履修者へのコメント）
・主体は講義形式であるが実技を行う場合がある。その際は学院指定のポロシャツ・KCズボンを着　用すること
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。

（テキスト）
・標準作業療法学　身体機能作業療法学　第3版　医学書院

（参考書）
・図解　作業療法技術ガイド　第3版　文光堂

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習	後 期	OT2年	1単位	30時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 ・中枢神経疾患の支援を理解するために必要な基本的な考え方や基礎技術を理解できる 【行動目標】 ・各中枢神経疾患の作業療法について説明できる ・各中枢神経疾患の疾患特性と作業療法の関係について説明できる
成績評価方法	・定期試験60点以上 ・提出物（随時、授業内配布資料提出） ・授業内小テスト

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	8月31日(月)	2	パーキンソン病の作業療法	三橋力也
2	9月7日(月)	2	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の作業療法①	
3	9月28日(月)	2	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の作業療法②	
4	10月5日(月)	2	多発性硬化症の作業療法	
5	10月19日(月)	2	筋萎縮性側索硬化症の作業療法	
6	10月26日(月)	2	脊髄損傷の作業療法①	
7	10月30日(金)	3	脊髄損傷の作業療法②	
8	10月6日(火)	3	脊髄損傷の作業療法③	
9	11月9日(月)	2	脊髄損傷の作業療法④	
10	11月13日(金)	3	脊髄損傷の作業療法⑤	
11	11月16日(月)	2	筋ジストロフィーの作業療法①	
12	11月21日(土)	3	筋ジストロフィーの作業療法②	
13		4	ギランバレー症候群の作業療法	
14	11月24日(火)	3	重症筋無力症の作業療法	
15		4	多発性筋炎の作業療法	

（履修者へのコメント）
・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。

（テキスト）
・標準作業療法学　身体機能作業療法学　第3版　医学書院

（参考書）
・図解　作業療法技術ガイド　第3版　文光堂

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体障害作業療法治療学演習	演 習	後 期	OT2年	1単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 疾患の障害像を深め、専門用語を使用して考察できる 【行動目標】 ・症例に対して必要な評価計画を立案することができる ・症例に対して各種検査、測定を実施し、評価結果から問題点抽出を行うことができる ・症例に対して目標設定を行い作業療法を実施ための治療計画立案、手段、方法などを説明できる
成績評価方法	提出物（レポート・評価ノート・観察評価ノート）により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	8月31日(月)	3	オリエンテーション（疾患に対する障害と評価・検査測定の目的）	桜井淳
2		4	症例に対しての検査・測定の目的（グループ発表）	
3	9月7日(月)	3	症例に対してのデモンストレーション	
4		4	評価計画立案（グループ発表）	
5	9月28日(月)	3	症例に対しての検査・測定と学生間評価①	
6		4	評価実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	
7	10月5日(月)	3	再評価計画立案（グループワーク）	
8		4	再評価計画立案（グループ発表）	
9	10月19日(月)	3	症例に対しての検査・測定と学生間評価②	
10		4	評価実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	
11	10月26日(月)	3	症例に対しての検査・測定と学生間評価③	
12		4	評価実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	
13	10月27日(火)	3	症例に対しての検査・測定と学生間評価④	
14		4	評価実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	
15	11月2日(月)	3	症例に対しての検査・測定と学生間評価⑤	

（履修者へのコメント）
・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（学院指定KCズボン着用）

（テキスト）
標準作業療法学　身体機能作業療法学　第3版　医学書院

（参考書）
図解作業療法技術ガイド　第3版　文光堂　・標準作業療法学　作業療法評価学　第3版　医学書院

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体障害作業療法治療学演習	演 習	後 期	OT2年	1単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 疾患の障害像を深め、専門用語を使用して考察できる 【行動目標】 ・症例に対して必要な評価計画を立案することができる ・症例に対して各種検査、測定を実施し、評価結果から問題点抽出を行うことができる ・症例に対して目標設定を行い作業療法を実施ための治療計画立案、手段、方法などを説明できる
成績評価方法	提出物（レポート・評価ノート・観察評価ノート）により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	11月2日(月)	4	評価実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	桜井淳
17	11月9日(月)	3	ICF・作業療法プログラム立案（グループワーク）	
18		4	ICF・作業療法プログラム立案（グループ発表）	
19	11月10日(火)	3	症例に対しての治療プログラム実施①	
20		4	プログラム実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	
21	11月16日(月)	3	症例に対しての治療プログラム実施②	
22		4	プログラム実施の振り返り（症例発表・ビデオフィードバック）	
23	11月17日(火)	4	まとめ	

（履修者へのコメント）
・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（学院指定KCズボン着用）

（テキスト）
・標準作業療法学　身体機能作業療法学　第3版　医学書院

（参考書）
・図解作業療法技術ガイド第3版　文光堂　・標準作業療法学　作業療法評価学　第3版　医学書院

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動器疾患作業療法治療学	講義	後期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋

教育目標

【一般目標】
1.整形外科領域の様々な疾患・障害についての正しい知識を学習する。
2.画像診断に関する予備的知識や物理療法に関する知識を習得する。
3.運動器疾患に対する評価、評価の統合と解釈の経験を積むことで、臨床における適切なリスク管理や適切な治療手段、運動療法や作業療法を選択する能力を身につける。
【行動目標】
1.各運動器疾患の一般的な病態について学び、分からない点は自ら調べたり、他者に質問したりすることで理解し、説明することができる。
2.正常なレントゲンやMRI、CT等と、骨折や腱断裂を呈したそれら画像との違いを理解し、指摘することができる。物理療法の種類と特徴、適応について理解し、述べることができる。
3.疾患・部位・時期を考慮して評価すべき項目や治療方法を挙げることができる。評価時・治療時の禁忌肢位やストレスのかかる（動かしてはいけない）運動方向を述べることができる。

成績評価方法

・定期試験、提出物、グループワークでのプレゼンテーションの内容等により総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 2日(水)	1	総論（骨折/脱臼/腱損傷/靭帯損傷/神経損傷/切断etc）	柘植哲洋
2		2	頸髄損傷の評価・治療 / 末梢神経損傷の評価・治療	
3	9月9日(水)	1	肩関節・上腕の疾患への対応　①講義	
4		2	肩関節・上腕の疾患への対応　②ケーススタディ・グループワーク課題提示	
5	9月16日(水)	1	肩関節・上腕の疾患への対応　③グループワーク発表・実技	
6		2	肘関節・前腕の疾患への対応　①講義②ケーススタディ・実技	
7	9月23日(水)	1	手関節・手指の疾患への対応　①講義	
8		2	手関節・手指の疾患への対応　②ケーススタディ	
9	9月 30日(水)	1	手関節・手指の疾患への対応　③前回講義の要点・実技	
10		2	股関節・大腿・膝関節の疾患、リウマチへの対応	
11	10月 7日(水)	1	脊椎疾患への対応　①講義・ケーススタディ	
12		2	脊椎疾患への対応　②実技、次回のグループワーク課題提示	
13	10月14日(水)	1	ケーススタディ（グループワーク発表）	
14		2	ケーススタディ（MTDLPの利用、腕神経叢損傷など）	
15	10月21日(水)	1	物理療法、スプリント療法、評価方法について、スポーツ整形疾患の運動療法	
16		2	総括	

履修者へのコメント
・解剖学、運動学、生理学の知識が重要です。苦手な学生は予習・復習を行うこと。参考資料を持参のこと。
・原則として、実技演習できる服装で参加すること。 講義ペース、順番について変更する場合あり。

テキスト
・身体機能作業療法学（医学書院）

参考書
・グラント解剖学図譜（医学書院）あるいは、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）、カパンディ関節の生理学、運動学の教科書などをお勧めします。

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部疾患作業療法治療学	講義	後期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋

教育目標	【一般目標】 1.様々な内部疾患・内部障害等についての正しい知識を学習する。 2.画像診断や血液データ分析等に関する基礎的知識を習得する。 3.内部疾患等に対する評価方法、リスク管理、適切な治療手段について学び、内部障害等における作業療法の役割を理解できる。 【行動目標】 1.各内部疾患等の一般的な病態について学び、分からない点は自ら調べたり、他者に質問したりすることで理解し、説明することができる。 2.正常なレントゲンやMRI、CT等画像との違いを理解し、指摘することができる。血液データの項目とそれが意味するものについて述べることができる。 3.疾患・部位・時期を考慮して評価すべき項目や治療方法等を挙げることができる。評価時・治療時のリスク管理について述べることができる。
成績評価方法	・定期試験、提出物、グループワークでのプレゼンテーションの内容等により総合的に判定する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	10月28日(水)	1	廃用症候群について① 概論	柘植哲洋
2		2	廃用症候群について② サルコペニアについて	
3	11月 4日(水)	1	呼吸器疾患のリハビリテーション①：講義中心	
4		2	呼吸器疾患のリハビリテーション②：聴診実技	
5	11月11日(水)	1	循環器疾患のリハビリテーション①	
6		2	循環器疾患のリハビリテーション②	
7	11月18日(水)	1	在宅酸素療法について、生活習慣病のリハビリテーション①	
8		2	生活習慣病のリハビリテーション②：腎不全・糖尿病を中心に	
9	11月25日(水)	1	神経・筋疾患のリハビリテーション①	
10		2	神経・筋疾患のリハビリテーション②	
11	12月23日(水)	1	終末期がんのリハビリテーション① 講義中心	
12		2	終末期がんのリハビリテーション② 講義中心	
13	1月 6日(月)	1	終末期がんのリハビリテーション③ 実技：コミュニケーションスキル	
14		2	終末期がんのリハビリテーション④ 痛みの薬剤について	
15	1月14日(木)	1	熱傷のリハビリテーション	
16		2	総括	

履修者へのコメント
・必要に応じて実技も行います。その場合はアナウンスしますので、実技演習できる服装で出席してください。

テキスト
・身体機能作業療法学（医学書院）

参考書
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学Ⅰ	講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	福田均

教育目標	【一般目標】 ・精神障害に対する作業療法の治療理論を理解し、 各疾患に対する作業療法の治療・援助方法について習得する。 ・対象者の生活を理解し、対象者の立場になって 治療・援助方法を立案できるようになる。 ・精神障碍者が利用できる社会資源を理解する。 【行動目標】 ・精神障害治療学を積極的に学ぼうという姿勢を示すこと
成績評価方法	小テスト、定期テストで総合的に判断する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 5日(土)	1	精神障碍者の地域移行支援	福田均
2	9月12日(土)	1	統合失調症の病理	
3	9月19日(土)	1	統合失調症の作業療法	
4	9月26日(土)	1	抑うつ性障害と双極性障害の病理	
5	10月 3日(土)	1	抑うつ性障害と双極性障害の作業療法	
6	10月10日(土)	1	認知症の病理	
7	10月17日(土)	1	認知症の作業療法	
8	10月24日(土)	1	パーソナリティ障害の病理と作業療法	
9	10月 31日(土)	1	神経症性障害の病理と作業療法	
10	11月 7日(土)	1	児童・思春期の障害と作業療法	
11	11月14日(土)	1	物質依存と作業療法	
12	11月21日(土)	1	摂食障害と作業療法	
13	11月21日(土)	2	関連法規　生活保護法・障害年金・障碍者手帳・自立支援医療	
14	11月 28日(土)	1	関連法規　総合支援法サービス	
15	11月28日(土)	2	関連法規　介護保険法サービス　まとめ	

履修者へのコメント
・授業の進捗状況によって変更有り。

テキスト
・ゴールドマスター　精神障害作業療法学

参考書
・精神障害と作業療法　三輪書店　山根　寛　著

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	伊藤剛

教育目標	・精神疾患に対して実施する作業療法の治療について習得する。 ・当事者の“生活のしづらさ”について説明できる。 ・評価結果から治療目標および計画立案ができる。
成績評価方法	・定期試験、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月 2日(水)	3	オリエンテーション	伊藤剛
2		4	症例検討（統合失調症―評価のみ―）	
3	9月9日(水)	3	症例検討内容の発表	
4		4	症例検討（統合失調症～亜急性期～）	
5	9月 16日(水)	3	〃	
6		4	症例検討（統合失調症～回復期～）	
7	9月23日(水)	3	〃	
8		4	症例検討（統合失調症～維持期～）	
9	9月 30日(水)	3	〃	
10		4	症例検討（うつ病）	
11	10月7日(水)	3	〃	
12		4	地域定着支援とアウトリーチ	
13	10月14日(水)	3	〃	
14		4	レポートの書き方と臨床実習	
15	10月 21日(水)	3	まとめ	
16		4		

（履修者へのコメント）
・疑問等はその場で解決できるよう積極的に講義へ参加すること

（テキスト）

（参考書）
・必要に応じて指定する

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神障害作業療法治療学演習	演 習	後 期	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子 熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 治療学（及び評価学）で学習した知識を実践として適応する技術を実施することができる。 事例を通して情報の収集と整理，解釈，治療計画立案を実践し，報告できる。 【行動目標】 １．精神科作業療法で用いる評価と介入法を適切に実施できる ２．事例に関するさまざまな情報を整理統合し、課題を焦点化できる ３．事例の介入計画立案ができる. ４．上記の情報、課題、介入方法を適切に記録し、報告できる
成績評価方法	提出課題などから総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月3日(木)	1	オリエンテーション	中山奈保子 熊谷淳平
2		2	事例紹介、読み合わせ	
3	9月10日(木)	3	事例の情報収集　グループワーク	
4		4	事例の情報収集　グループワーク発表	
5	9月17日(木)	3	事例の評価項目立案　グループワーク	
6		4	事例の評価項目立案　グループワーク発表	
7	9月24日(木)	3	事例の課題の焦点化（ICF）　グループワーク①	
8		4	事例の課題の焦点化（ICF）　グループワーク②	
9	10月1日(木)	3	事例の課題の焦点化（ICF）　グループワーク③	
10		4	事例の課題の焦点化（ICF）　グループワーク発表	
11	10月8日(木)	3	事例の課題の介入計画立案　グループワーク①	
12		4	事例の課題の介入計画立案　グループワーク②	
13	10月15日(木)	3	事例の課題の介入計画立案　グループワーク③	
14		4	事例の課題の介入計画立案　グループワーク発表	
15	10月22日(木)	3	事例2紹介、読み合わせ、情報収集	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神障害作業療法治療学演習	演 習	後 期	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子 熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 治療学（及び評価学）で学習した知識を実践として適応する技術を実施することができる。 事例を通して情報の収集と整理，解釈，治療計画立案を実践し，報告できる。 【行動目標】 １．精神科作業療法で用いる評価と介入法を適切に実施できる ２．事例に関するさまざまな情報を整理統合し、課題を焦点化できる ３．事例の介入計画立案ができる. ４．上記の情報、課題、介入方法を適切に記録し、報告できる
成績評価方法	提出課題などから総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	10月22日(木)	4	事例2の評価項目立案　グループワーク	中山奈保子 熊谷淳平
17	10月29日(木)	3	事例2の課題の焦点化（ICF）　グループワーク	
18		4	事例2の評価項目および課題焦点化のグループワーク発表	
19	11月5日(木)	3	事例2の課題の介入計画立案　グループワーク	
20		4	事例の課題の介入計画立案　グループワーク発表	
21	11月12日(木)	3	治療場面　ロールプレイ①	
22		4	治療場面　ロールプレイ②	
22	11月19日(木)	3	治療場面　ロールプレイ③	
23		4	総括	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
発達障害作業療法治療学	講 義	後 期	OT2年	２単位	30時間	根本浩則

教育目標	発達障害領域における評価と治療について、基本的な知識・技術を習得する。
成績評価方法	・定期試験、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	10月2日(金)	3	オリエンテーション	根本浩則
2	10月2日(金)	4	子どもの発達過程	
3	10月16日(金)	3	発達領域における評価	
4	10月16日(金)	4	主訴と問題点の整理	
5	10月30日(金)	3	治療構造の組み立て方	
6	10月30日(金)	4	アクティビティの活用	
7	11月6日(金)	3	ケーススタディ①	
8	11月6日(金)	4	ケーススタディ②	
9	11月20日(金)	3	ケーススタディ③	
10	11月20日(金)	4	ケーススタディ④	
11	12月4日(金)	3	ケーススタディ⑤	
12	12月4日(金)	4	ケーススタディ⑥	
13	12月18日(金)	3	ケーススタディ⑦	
14	12月18日(金)	4	保護者へのフィードバック、報告書の作成	
15	12月25日(金)	3	地域における支援	

(履修者へのコメント)
・講義や演習を通して、みなさんが臨床に出たときに役立つ内容をできる限りお伝えしたいと思います。

(テキスト)
・作業療法学ゴールドマスターテキスト　発達障害作業療法学（メジカルビュー社）

(参考書)
・発達OTが考える子どもセラピィの思考プロセス（メジカルビュー社）
・クリニカル作業療法シリーズ　発達障害領域の作業療法（中央法規）

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期作業療法治療学	講義・演習	後 期	OT2年	1単位	30時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 ・高齢者のこれまで歩んできた生活を知る ・老年期に起こりやすい疾患および合併症についての基礎知識を身に付ける ・高齢者をとりまく環境、制度を踏まえた作業療法介入のための知識を深める 【行動目標】 ・高齢者がこれまで送ってきた生活を理解・説明できる ・高齢者に起こりやすい疾患および合併症について説明できる ・高齢者の心身の変化を理解し、適切な対応ができる
成績評価方法	・定期試験、提出物により総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月4日(金)	2	老年期の生活①	高梨翼
2	9月11日(金)	2	老年期の生活②　～グループワーク～	
3	9月18日(金)	2	老年期の生活③　～グループ発表～	
4	9月25日(金)	2	加齢と疾患・老人の尊厳と接し方	
5	10月2日(金)	2	認知症に対する作業療法	
6	10月9日(金)	2	整形外科疾患に対する作業療法	
7	10月16日(金)	2	中枢疾患に対する作業療法	
8	10月23日(金)	2	循環器疾患に対する作業療法	
9	10月30日(金)	2	廃用症候群に対する作業療法	
10	11月6日(金)	2	制度と作業療法提供施設　～医療系施設/介護系施設～	
11	11月13日(金)	2	入院における作業療法	
12	11月20日(金)	3	訪問における作業療法	
13	11月20日(金)	4	通所における作業療法	
14	11月27日(金)	3	入所における作業療法	
15	11月27日(金)	4	事例検討・総括	

（履修者へのコメント）
現在、日本は超高齢社会を迎えており、今後はより高齢者に向けてのリハビリの比重が増えることが予測されます。作業療法士は、生活の支援を行う職業であることから、高齢者の生活をより楽しく、充実したものとするための援助ができるように、専門的な知識を一緒に学んでいきましょう！

（テキスト）
・ゴールドマスターテキスト 老年期作業療法学

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期治療学演習	演 習	後 期	OT2年	1単位	45時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 老年期作業療法における、初期評価からプログラム立案、介入、再評価までの一連の流れを身に付ける 【行動目標】 ・対象者の身体的な問題だけでなく、精神面や生活背景、環境、QOLを意識した介入ができるようになる ・高齢者の起こりやすい疾患に対しての介入方法を理解し、実施できるようになる ・対象者に合わせた作業活動を選択できるようになる ・事例に基づいた効果的な作業療法介入を検討し、より実践的な知識と技術を身に付けることができる
成績評価方法	・学習態度、提出物より総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月10日(木)	1	老年期作業療法の実際　～介入の流れを確認～	高梨翼
2		2	アクティビティと作業療法①	
3	9月17日(木)	1	アクティビティと作業療法②	
4		2	アクティビティと作業療法③	
5	9月24日(木)	1	作業活動の選択　～グループワーク～	
6		2	作業活動の選択　～グループ発表～	
7	10月1日(木)	1	身体機能面に着目した作業療法アプローチ	
8		2	認知機能面に着目した作業療法アプローチ	
9	10月8日(木)	1	能力面に着目した作業療法アプローチ	
10		2	予防から維持を意識した作業療法アプローチ	
11	10月15日(木)	1	自助具・住宅改修を意識した作業療法アプローチ	
12		2	老年期作業療法における症例検討　～グループワーク～	
13	10月22日(木)	1	老年期作業療法における症例検討　～グループ発表～	
14		2	老年期作業療法における症例検討　～グループワーク～	
15	10月29日(木)	1	老年期作業療法における症例検討　～グループ発表～	

（履修者へのコメント）
元々、作業療法とは作業活動を用いて、対象者の心身機能の改善を図る職業です。近年、作業療法士の活躍する場が増えたことで、求められる要素が増えましたが、根底は変わりません。高齢者のこれまでの人生や趣味、生きがいを理解し、適切な作業を提供できる作業療法士を目指して頂きたいと思っております。治療目標を達成するための手段である「作業」はさまざまな要素を考慮して決定されます。どのような作業選択がその対象者の治療にとって最善かは、作業療法士に任された「選択権」の範囲です。ここまで自由度の高い選択ができるのは作業療法士だけではないでしょうか。それだけに、専門的な知識も必要です。みなさんで、たくさん意見を出し合い、学んでいきましょう！

（テキスト）
・

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期治療学演習	演 習	後 期	OT2年	1単位	45時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 老年期作業療法における、初期評価からプログラム立案、介入、再評価までの一連の流れを身に付ける 【行動目標】 ・対象者の身体的な問題だけでなく、精神面や生活背景、環境、QOLを意識した介入ができるようになる ・高齢者の起こりやすい疾患に対しての介入方法を理解し、実施できるようになる ・対象者に合わせた作業活動を選択できるようになる ・事例に基づいた効果的な作業療法介入を検討し、より実践的な知識と技術を身に付けることができる
成績評価方法	・学習態度、提出物より総合的に判定する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	10月29日(木)	2	老年期作業療法における症例検討　～グループワーク～	高梨翼
17	11月5日(木)	1	老年期作業療法における症例検討　～グループ発表～	
18		2	老年期作業療法における症例検討　～グループワーク～	
19	11月12日(木)	1	老年期作業療法における症例検討　～グループ発表～	
20		2	老年期作業療法における症例検討　～グループワーク～	
21	11月19日(木)	1	老年期作業療法における症例検討　～グループ発表～	
22		2	老年期作業療法における症例検討　～グループワーク～	
23	11月26日(木)	2	老年期作業療法における症例検討　～グループ発表～	

（履修者へのコメント）
元々、作業療法とは作業活動を用いて、対象者の心身機能の改善を図る職業です。近年、作業療法士の活躍する場が増えたことで、求められる要素が増えましたが、根底は変わりません。高齢者のこれまでの人生や趣味、生きがいを理解し、適切な作業を提供できる作業療法士を目指して頂きたいと思っております。治療目標を達成するための手段である「作業」はさまざまな要素を考慮して決定されます。どのような作業選択がその対象者の治療にとって最善かは、作業療法士に任された「選択権」の範囲です。ここまで自由度の高い選択ができるのは作業療法士だけではないでしょうか。それだけに、専門的な知識も必要です。みなさんで、たくさん意見を出し合い、学んでいきましょう！

（テキスト）
・

（参考書）
・随時、必要に応じて紹介する

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　ⅱ）作業療法管理学 　ⅲ）作業療法評価学 　ⅳ）作業療法治療学 　**ⅴ）地域作業療法学** 　ⅵ）臨床実習 Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法学治療学特論	Ⅲ 専門分野 地域作業療法学 5単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生活環境論	講義	前期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋

教育目標	【一般目標】 1.豊かな生活を営むための代償的な資源（自助具・福祉機器・住宅改修等）について理解できる。 2.住環境に対するアプローチ方法について学び、住宅改修への提案をするために必要な知識を習得する。 3.医療や介護の分野における様々な社会制度について理解することができる。 【行動目標】 1.様々な自助具・福祉機器等の種類や特徴、用途等について自ら調べ、述べることができる。 2.クライアントのニーズに合わせた住宅改修や社会資源の利用ができるように、教科書や資料等を自ら情報収集し、提案することができる。 3.各制度の特徴や違いを述べることができる。また、医療保険・介護保険それぞれで利用可能なサービス等について把握し、特徴を説明できる。
成績評価方法	定期試験、グループワークでのプレゼン内容、及び実技研修での技能獲得状況等により総合的に判断する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月13日(水)	1	生活環境学の概論。住宅環境とは？	柘植哲洋
2		2	情報収集・評価(面接含む)のスキル・他職種連携	
3	5月20日(水)	1	福祉機器（電動ベッドなど）、住宅改修：手すり、段差解消	
4		2	介護保険制度、障害者総合支援法、補装具費支給制度	
5	5月27日(水)	1	生活構造・地域環境・住環境に対する評価、家屋評価のポイント	
6		2	間取り図の描き方について、住宅改修案について	
7	6月 3日(水)	1	住宅改修案：グループワーク課題の提示、ディスカッション	
8		2	住宅改修案：グループワーク課題の発表	
9	6月10日(水)	1	疾患別住環境整備の考え方	
10		2	福祉住環境整備の基本的なポイント、部屋別・場所別のポイント	
11	6月17日(水)	1	福祉用具・ADLで用いる自助具の紹介・自助具作製	
12		2	疾患別の福祉用具導入例（CVA,RAなど）等	
13	6月24日(水)	1	ポジショニングについて	
14		2	シーティングについて（車いすの選定・調整）	
15	7月 1日(水)	1	杖・歩行器の選定・調整	
16		2	総括（その他、災害リハビリテーションについて）	

履修者へのコメント
・授業形式は講義・グループワーク・実技とする。その都度適した形式にて授業を進める。

テキスト
・標準作業療法学「地域作業療法学」（医学書院）　その他、適宜配布資料あり
・日常生活動作援助論のテキスト（日常生活活動・社会生活行為学）の一部も参考にする予定です。

参考書

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学	講 義	前 期	OT2年	２単位	30時間	熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 ・地域における基本的な作業療法について理解する。 【行動目標】 ・地域リハビリテーションおよび作業療法の概念、目的について説明できる。 ・地域作業療法を支える制度について説明できる。 ・実践の場に応じた作業療法について説明できる。
成績評価方法	・本試験および講義中に行うグループワーク参加度、提出課題の内容により総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	6月12日(金)	3	オリエンテーション　地域リハビリテーションの流れ	熊谷淳平
2	6月19日(金)	3	地域リハビリテーションの背景	
3	6月26日(金)	3	地域リハビリテーションを支える医療制度	
4	7月3日(金)	3	地域リハビリテーションを支える介護・福祉制度	
5	7月10日(金)	3	地域資源①	
6	7月17日(金)	3	地域資源②	
7	7月24日(金)	3	当事者と家族	
8	8月31日(月)	1	通所系作業療法	
9	9月7日(月)	1	訪問系作業療法①	
10	9月28日(月)	1	訪問系作業療法②	
11	10月5日(月)	1	地域生活移行支援（精神科領域）	
12	10月19日(月)	1	行政における作業療法	
13	10月26日(月)	1	学校における作業療法	
14	11月9日(月)	1	災害時の支援	
15	11月16日(月)	1	臨床実習・国家試験対策	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学演習	演 習	前 期	OT2年	1単位	45時間	吉川惠

教育目標	【一般目標】 ・身近な地域の特性や地域課題を理解し、課題解決に向けた地域作業療法（士）の役割を検討する。 【行動目標】 ・地域の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性や課題をとらえる方法について説明できる。 ・実践の場に応じた作業療法について具体例に基づき説明できる。
成績評価方法	・本試験および講義中に行うグループワーク参加度、提出課題の内容により総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	9月29日(火)	1	オリエンテーション　地域の特性を知る	吉川惠
2	9月29日(火)	2	地域が抱える課題とリハビリテーション	
3	10月6日(火)	1	地域課題とリハビリテーション　実践例に学ぶ	
4	10月6日(火)	2	地域課題とリハビリテーション　実践例に学ぶ	
5	10月13日(火)	1	まちづくりと作業療法	
6	10月13日(火)	2	まちづくりと作業療法	
7	10月20日(火)	1	地域保健活動と作業療法	
8	10月20日(火)	2	地域保健活動と作業療法	
9	10月27日(火)	1	地域課題と作業療法①医療施設の役割	
10	10月27日(火)	2	地域課題と作業療法①医療施設の役割	
11	11月3日(火)	1	地域課題と作業療法②介護施設の役割	
12	11月3日(火)	2	地域課題と作業療法②介護施設の役割	
13	11月10日(火)	1	地域課題と作業療法③通所施設の役割	
14	11月10日(火)	2	地域課題と作業療法③通所施設の役割	
15	11月17日(火)	1	地域課題と作業療法④訪問リハビリテーションの役割	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・標準作業療法学専門分野　地域作業療法学第3版

（参考書）
・ゴールドマスターテキスト作業療法学地域作業療法学

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学演習	演 習	前 期	0T2年	1単位	45時間	吉川惠

教育目標	【一般目標】 ・身近な地域の特性や地域課題を理解し、課題解決に向けた地域作業療法（士）の役割を検討する。 【行動目標】 ・地域の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性や課題をとらえる方法について説明できる。 ・実践の場に応じた作業療法について具体例に基づき説明できる。
成績評価方法	・本試験および講義中に行うグループワーク参加度、提出課題の内容により総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	11月17日(火)	2	地域課題と作業療法④訪問リハビリテーションの役割	吉川惠
17	11月24日(火)	1	臨床実習・国家試験対策	
18	11月24日(火)	2	臨床実習・国家試験対策	
19	12月22日(火)	1	記録と事例報告	
20	12月22日(火)	2	記録と事例報告	
21	1月5日(日)	1	事例検討	
22	1月5日(日)	2	事例検討	
23	1月12日(火)	1	総括①	
24	1月12日(火)	2	総括②	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・標準作業療法学専門分野　地域作業療法学第3版

（参考書）
・ゴールドマスターテキスト作業療法学地域作業療法学

Ⅰ．基礎分野 　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解 Ⅱ．専門基礎分野 　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達 　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念 Ⅲ．専門分野 　ⅰ）基礎作業療法学 　ⅱ）作業療法管理学 　ⅲ）作業療法評価学 　ⅳ）作業療法治療学 　ⅴ）地域作業療法学 　**ⅵ）臨床実習** Ⅳ．選択必修専門分野 　ⅰ）作業療法治療学特論	Ⅲ 専門分野 臨床実習 24単位

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習Ⅰ	実 習	通 年	0T1年	1単位	45時間	中山奈保子

教育目標	作業療法が実践されるうる医療・保健・福祉・職業・教育などの領域について その概要と背景について説明できる。
成績評価方法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する （実習の手引き参照のこと）

回	内容	担当者
	実習前オリエンテーション（各実習ごと）	中山奈保子
	①国際福祉機器展 ②国立リハビリテーションセンター ③四季の里　夏祭り ④解剖学実習 ⑤東京都立松沢病院	引率 中山奈保子
	見学実習　報告会（各実習ごと）	中山奈保子

（履修者へのコメント）
・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。
・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、社会人・医療職として節度ある行動をとることを望みます。

（テキスト）
・実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習Ⅱ	実 習	後 期	OT1年	1単位	45時間	中山奈保子

教育目標	作業療法実践を作業療法士の業務内容及び臨床技能を学び理解する。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができるとし、臨床場面において見学した臨床技能の一部を臨床実習指導者のもと、実践できる
成績評価方法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する （実習の手引き参照のこと）

回	内容			担当者
	1月20日(月)	1	見学実習　前ガイダンス	中山奈保子
		2		
	2020年　1月27日 ～ 2020年　2月1日	見学実習		
	2月3日(月)	1	見学実習　後ガイダンス	
	2月7日(木)	1	見学実習　報告会	
		2		

（履修者へのコメント）
・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。
・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。

（テキスト）
・実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
検査実習	実 習	後 期	0T2年	1 単位	45時間	中山奈保子

教育目標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実過程において、臨床実習指導者の指導のもとで作業療法に必要な検査測定について基本的な臨床技術・技能を学び模倣することができる。
成績評価方法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する （実習の手引き参照のこと）

回	内容			担当者
	7月7日(火)	5	検査実習　実習指導者会議　リハーサル	中山奈保子
	7月8日(水)	3・4	検査実習　実習指導者会議	
	8月3日(月)	1・2	検査実習　前ガイダンス	
	2019年　8月19日 ～ 2019年　8月24日		検査実習	
	8月24日(月)	1・2	検査実習　後ガイダンス	
	8月25日(火)	1～4	検査実習　報告会	

（履修者へのコメント）

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習Ⅰ	実 習	後 期	OT2年	3単位	135時間	吉川惠

教育目標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実践過程において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し対象者の生活状態の把握について模倣実践できる。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。
成績評価方法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する （実習の手引き参照のこと）

回	内容			担当者
	未定	３・４	評価実習Ⅰ　実習指導者会議　リハーサル	吉川惠
	未定	１～４	評価実習Ⅰ　実習指導者会議	
	11月24日(火)	１・2	評価実習Ⅰ　前ガイダンス	
	2020年　11月30日 ～ 2020年　12月19日		評価実習Ⅰ	
	12月21日(月)	１・2	評価実習Ⅰ　後ガイダンス	
	未定	1～4	評価実習Ⅰ　報告会①	
	未定	1～4	評価実習Ⅰ　報告会②	

（履修者へのコメント）

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習Ⅱ	実 習	後 期	OT2年	3単位	135時間	吉川惠

教育目標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実践過程において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し対象者の生活状態の把握について模倣実践できる。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。
成績評価方法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する （実習の手引き参照のこと）

回	内容			担当者
1	未定	３・４	評価実習Ⅱ　実習指導者会議　リハーサル	吉川惠
2	未定	１～４	評価実習Ⅱ　実習指導者会議	
3	11月24日(火)	１・2	評価実習Ⅱ　前ガイダンス	
4	2021年　1月25日 ～ 2021年　2月13日		評価実習Ⅱ	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13	2月15日(月)	１・2	評価実習Ⅱ　後ガイダンス	
14	未定	1～4	評価実習Ⅱ　報告会①	
15	未定	1～4	評価実習Ⅱ　報告会②	

（履修者へのコメント）

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅰ	実 習	前 期	OT3年	8単位	360時間	高梨翼

教育目標	《到達目標》 作業療法過程を指導者の指導のもとに実施できる 《行動目標》 ①対象者・キーパーソンに検査・測定について説明し同意を得ることができる ②対象者・キーパーソンから生活状況を聴取できる ③対象者・キーパーソンのニーズを聴取することができる ④記録から対象者に関する情報を収集できる ⑤多職種から対象者に関する情報を聴取できる ⑥検査・測定を実施するための準備ができる ⑦対象者の症状・障害に応じた検査・測定を模倣または実施できる ⑧模倣または実施した検査・測定の経過および結果を記録できる ⑨評価結果を整理することができる ⑩作業療法目標を指導者とともに検討し理解を深める ⑪作業療法計画を指導者とともに検討し理解を深める ⑫対象者・キーパーソンに治療・指導・援助の計画・目的について説明し同意を得ることができる ⑬適切なリスク管理を行い対象者にとって安心で安全な環境下で治療・指導・援助を実施でき、実習中の対象者の状況変化にも対応することができる。 ⑭治療・指導・援助を一定期間実施した後、実施内容の成果を説明できる。
成績評価方法	◎実習地における目標達成度に対する評価、学内における課題、実技試験等をもって総合的に判定する。

回	内容	担当者
1	実習前ガイダンス	高梨翼
2	実習前OSCE	
3	臨床実習	
4	実習後ガイダンス	
5	実習後OSCE	
6	報告会	
7	総合臨床実習Ⅰ期（5月11日～7月4日）　全学生	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

（履修者へのコメント）

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅱ	実 習	前 期	OT3年	8単位	360時間	高梨翼

教育目標	《到達目標》 作業療法過程を指導者の指導のもとに実施できる 《行動目標》 ①対象者・キーパーソンに検査・測定について説明し同意を得ることができる ②対象者・キーパーソンから生活状況を聴取できる ③対象者・キーパーソンのニーズを聴取することができる ④記録から対象者に関する情報を収集できる ⑤多職種から対象者に関する情報を聴取できる ⑥検査・測定を実施するための準備ができる ⑦対象者の症状・障害に応じた検査・測定を模倣または実施できる ⑧模倣または実施した検査・測定の経過および結果を記録できる ⑨評価結果を整理することができる ⑩作業療法目標を指導者とともに検討し理解を深める ⑪作業療法計画を指導者とともに検討し理解を深める ⑫対象者・キーパーソンに治療・指導・援助の計画・目的について説明し同意を得ることができる ⑬適切なリスク管理を行い対象者にとって安心で安全な環境下で治療・指導・援助を実施でき、実習中の対象者の状況変化にも対応することができる。 ⑭治療・指導・援助を一定期間実施した後、実施内容の成果を説明できる。
成績評価方法	◎実習地における目標達成度に対する評価、学内における課題、実技試験等をもって総合的に判定する。

回	内容	担当者
1	実習前ガイダンス	高梨翼
2	実習前OSCE	
3	臨床実習	
4	実習後OSCE	
5	実習後ガイダンス	
6	報告会	
7	総合臨床実習Ⅱ期（8月17日～10月10日）　全学生	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

（履修者へのコメント）

（テキスト）
・

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域実践実習	実 習	前 期	OT3年	1単位	45時間	高梨翼

教育目標	《到達目標》 地域における作業療法の役割を理解する 《行動目標》 ①地域における施設の役割について説明する ②施設における作業療法士の役割について説明する ③多職種と作業療法士との関係を説明する ④作業療法に関連する制度について説明する ⑤記録、診療報酬請求などについて説明する ⑥カルテ、書類など必要な管理義務を説明する
成績評価方法	◎実習地における目標達成度に対する評価、学内における課題、実技試験等をもって総合的に判定する。

回	内容	担当者
1	実習前ガイダンス	高梨翼
2	地域実践実習	
3	実習後ガイダンス	
4	報告会	
5	地域実践実習A（10月19日～10月24日）　Aに分類された学生のみ	
6	地域実践実習B（10月26日～10月31日）　Bに分類された学生のみ	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

（履修者へのコメント）

（テキスト）
・

（参考書）
・

Ⅲ

専門分野

作業療法治療学特論

3単位

Ⅰ．基礎分野
　ⅰ）科学的思考の基盤　人間と生活　社会の理解

Ⅱ．専門基礎分野
　ⅰ）人体の構造と機能及び心身の発達
　ⅱ）疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
　ⅲ）保健医療福祉とリハビリテーションの理念

Ⅲ．専門分野
　ⅰ）基礎作業療法学
　ⅱ）作業療法管理学
　ⅲ）作業療法評価学
　ⅳ）作業療法治療学
　ⅴ）地域作業療法学
　ⅵ）臨床実習

Ⅳ．選択必修専門分野
　ⅰ）作業療法治療学特論

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
集団的作業療法特論	演 習	通 年	0T1年	1単位	45時間	中山奈保子

教育目標	【一般目標】 ・「集団活動」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 【行動目標】 ・他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 ・企画書、報告書を作成する。 ・企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月17日(金)	4	オリエンテーション　作業療法と集団活動	中山奈保子
2	5月24日(金)	4	オリエンテーション　作業療法と集団活動	
3	5月31日(金)	4	集団活動と健康	
4	6月7日(金)	4	集団活動と社会生活	
5	6月13日(木)	3	企画書の作成	
6		4	グループワーク（企画・準備）	
7	6月21日(金)	3	中間報告会	
8		4	グループ発表①	
9	6月28日(金)	3	グループ発表②	
10		4	グループ発表③	
11	7月5日(金)	3	グループ発表④	
12		4	グループ発表⑤	
13	7月12日(金)	3	集団を用いた作業療法の実際	
14		4	集団を用いた作業療法の実際	
15	7月19日(金)	3	合同発表会	

(履修者へのコメント)

(テキスト)

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
集団的作業療法特論	演 習	通 年	0T1年	1 単位	45時間	中山奈保子

教育目標	【一般目標】 ・「集団活動」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 【行動目標】 ・他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 ・企画書、報告書を作成する。 ・企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	7月17日(金)	4	合同発表会	中山奈保子
17	9月4日(金)	3	合同発表会	
18		4	事例報告会・レポート指導	
19	9月11日(金)	3	事例報告会・レポート指導	
20		4	事例報告会・レポート指導	
21	9月18日(金)	3	文献抄読①	
22		4	文献抄読②	
23	10月9日(金)	3	作業療法と集団活動　事例検討	
24		4	作業療法と集団活動　事例検討	

(履修者へのコメント)

(テキスト)

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
遊び・余暇活動特論	演 習	通 年	0T1年	1単位	45時間	髙梨翼

教育目標	【一般目標】 ・「遊び（余暇活動）」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 【行動目標】 ・他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 ・企画書、報告書を作成する。 ・企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月15日(金)	4	オリエンテーション　作業療法と遊び・余暇活動	髙梨翼
2	5月22日(金)	4	オリエンテーション　作業療法と遊び・余暇活動	
3	5月29日(金)	4	遊び・余暇活動と健康	
4	6月5日(金)	4	遊び・余暇活動と社会生活	
5	6月11日(木)	3	企画書の作成	
6		4	グループワーク（企画・準備）	
7	6月19日(金)	3	中間報告会	
8		4	グループ発表①	
9	6月26日(金)	3	グループ発表②	
10		4	グループ発表③	
11	7月3日(金)	3	グループ発表④	
12		4	グループ発表⑤	
13	7月10日(金)	3	遊びを用いた作業療法の実際	
14		4	遊びを用いた作業療法の実際	
15	7月17日(金)	3	合同発表会	

（履修者へのコメント）
・上級生の指導を受ける機会となるため、態度等に留意し積極的にコミュニケーションを図ること。
・小グループやペアによる実技形式ですすめていくので、動きやすい服装で臨むこと。

（テキスト）
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
遊び・余暇活動特論	演 習	通 年	0T1年	1単位	45時間	高梨翼

教育目標	【一般目標】 ・「遊び（余暇活動）」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 【行動目標】 ・他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 ・企画書、報告書を作成する。 ・企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	7月19日(金)	4	合同発表会	高梨翼
17	9月6日(金)	3	合同発表会	
18		4	事例報告会・レポート指導	
19	9月13日(金)	3	事例報告会・レポート指導	
20		4	事例報告会・レポート指導	
21	9月20日(金)	3	文献抄読①	
22		4	文献抄読②	
23	10月11日(金)	3	作業療法と遊び・余暇活動　事例検討	
24		4	作業療法と遊び・余暇活動　事例検討	

(履修者へのコメント)

(テキスト)

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
ハンドセラピー特論	演 習	通 年	OT2年	1単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医療におけるハンドセラピーの理論および実践方法を探求する 【行動目標】 ・ハンドセラピーに関連する文献を検索・選定する ・ハンドセラピーの目的・方法・禁忌・結果の概要をまとめて他学生に報告する ・ハンドセラピーの方法を実践する
成績評価方法	①レポート ②プレゼンテーション ①～②により総合的に評価する

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月7日(木)	5	オリエンテーション・ハンドセラピーと作業療法	桜井淳
2	5月14日(木)	5	腱板損傷	
3	5月21日(木)	5	肩甲骨の関節可動域（ROM）訓練・上肢帯・肩関節筋の筋のストレッチ	
4	5月28日(木)	5	上肢帯・肩関節筋の筋の起始・停止・運動・神経・肩甲上腕リズム①	
5	6月4日(木)	5	上肢帯・肩関節筋の筋の起始・停止・運動・神経・肩甲上腕リズム②	
6	6月11日(木)	5	肩甲上腕リズムの再教育・セラバンドを使用した肩甲骨のROM訓練	
7	6月15日(月)	5	ホットパックとセルフケア	
8	6月22日(月)	5	ホットパックとセルフケア　レポート作成	
9	6月29日(月)	5	肘関節のROM訓練・肘関節の筋（手外来筋）のストレッチ	
10	7月6日(月)	5	肘と前腕に存在する4関節・外来筋と手内在筋の機能	
11	7月20日(月)	5	手内在筋のストレッチ	
12	9月3日(木)	3	手内在筋群の起始・停止・運動・神経	
13		4	手の浮腫の評価と治療（手の浮腫の測定・交代浴）	
14	9月10日(木)	5	CRPS・手の浮腫の測定と交代浴の方法　レポート作成	
15	9月17日(木)	5	上肢の粗大運動・リーチ動作・手指の巧緻性の治療①	

（履修者へのコメント）
・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（学院指定ポロシャツ・KCズボン着用）
・授業の進行状況により変更有り

（テキスト）
・基礎運動学（第６版補訂）著：中村隆一 他　医歯薬出版株式会社

（参考書）
・リハ実践テクニック　ハンドセラピィ　MEDICAl VIEW
・作業療法士のためのハンドセラピー入門　第2版　三輪書院
・標準作業療法学　身体機能作業療法学　第2版　医学書院

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
ハンドセラピー特論	演 習	通 年	OT2年	1単位	45時間	桜井淳

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医療におけるハンドセラピーの理論および実践方法を探求する。 【行動目標】 ハンドセラピーに関連する学術論文を検索・選定する。 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	学術論文抄読レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	9月24日(木)	5	上肢の粗大運動・リーチ動作・手指の巧緻性の治療②	桜井淳
17	10月1日(木)	5	ホームプログラム立案と実施　レポート作成	
18	10月8日(木)	5	ホームプログラム立案と実施　プレゼンテーション	
19	10月15日(木)	5	手のactivityによる治療　レポート作成	
20	10月22日(木)	5	手のactivityによる治療　プレゼンテーション	
21	10月30日(金)	4	手のactivityによる治療　実施	
22	11月6日(金)	4	手のactivityによる治療　実施	
23	11月13日(金)	4	手のactivityによる治療　実施	

(履修者へのコメント)
・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（学院指定ポロシャツ・KCズボン着用）
・授業の進行状況により変更有り

(テキスト)
・基礎運動学（第６版補訂）著：中村隆一 他　医歯薬出版株式会社

(参考書)
・リハ実践テクニック　ハンドセラピィ　MEDICAl VIEW
・作業療法士のためのハンドセラピー入門　第2版　三輪書院
・標準作業療法学　身体機能作業療法学　第3版　医学書院

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
福祉機器特論	演 習	通 年	0T2年	1単位	45時間	熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医療における福祉機器の開発および臨床への応用を探求する。 【行動目標】 福祉機器に関連する学術論文を検索・選定する。 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	学術論文抄読レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月7日(木)	5	オリエンテーション	熊谷淳平
2	5月14日(木)	5	文献検索　概要作成	
3	5月21日(木)	5	プレゼンテーション技法①	
4	5月28日(木)	5	プレゼンテーション技法②	
5	6月4日(木)	5	発表・討論	
6	6月11日(木)	5		
7	6月15日(月)	5		
8	6月22日(月)	5		
9	6月29日(月)	5		
10	7月6日(月)	5		
11	7月20日(月)	5		
12	9月3日(木)	3		
13		4		
14	9月10日(木)	5		
15	9月17日(木)	5		

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

(参考書)
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
福祉機器特論	演 習	通 年	0T2年	1単位	45時間	熊谷淳平

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医療における福祉機器の開発および臨床への応用を探求する。 【行動目標】 福祉機器に関連する学術論文を検索・選定する。 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	学術論文抄読レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	9月24日(木)	5	発表・討論	熊谷淳平
17	10月1日(木)	5		
18	10月8日(木)	5		
19	10月15日(木)	5		
20	10月22日(木)	5		
21	10月30日(金)	4		
22	11月6日(金)	4		
23	11月13日(金)	4		

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

(参考書)
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
高次脳機能障害特論	演 習	通 年	OT2年	１単位	45時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 高次脳機能障害の対象者理解を深め、作業療法の臨床への応用を探求する。 【行動目標】 高次脳機能障害に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 高次脳機能障害に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月7日(木)	5	高次脳機能障害に関係する疾患理解１	三橋力也
2	5月14日(木)	5	高次脳機能障害に関係する疾患理解２	
3	5月21日(木)	5	プレゼンテーション資料の作成１	
4	5月28日(木)	5	プレゼンテーション１	
5	6月4日(木)	5	資料の修正と作成１	
6	6月11日(木)	5	高次脳機能障害の機能障害理解１	
7	6月15日(月)	5	高次脳機能障害の機能障害理解２	
8	6月22日(月)	5	プレゼンテーション資料の作成２	
9	6月29日(月)	5	プレゼンテーション２	
10	7月6日(月)	5	資料の修正と作成２	
11	7月20日(月)	5	高次脳機能障害の能力障害理解１	
12	9月3日(木)	3	高次脳機能障害の能力障害理解２	
13		4	プレゼンテーション資料の作成３	
14	9月10日(木)	5	プレゼンテーション３	
15	9月17日(木)	5	資料の修正と作成３	

（履修者へのコメント）
・

（テキスト）
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
高次脳機能障害特論	演 習	通 年	OT2年	１単位	45時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 高次脳機能障害の対象者理解を深め、作業療法の臨床への応用を探求する。 【行動目標】 高次脳機能障害に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 高次脳機能障害に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	9月24日(木)	5	高次脳機能障害の社会参加障害の理解１	三橋力也
17	10月1日(木)	5	高次脳機能障害の社会参加障害の理解２	
18	10月8日(木)	5	プレゼンテーション資料の作成４	
19	10月15日(木)	5	プレゼンテーション４	
20	10月22日(木)	5	資料の修正と作成４	
21	10月30日(金)	4	高次脳機能障害と作業療法１	
22	11月6日(金)	4	高次脳機能障害と作業療法２	
23	11月13日(金)	4	高次脳機能障害と作業療法３	

(履修者へのコメント)
・

(テキスト)
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

(参考書)
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床作業療法特論	演 習	通 年	OT1年	1単位	45時間	吉川惠

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医療における臨床現場における作業療法の理論および実践方法を探求する。 【行動目標】 臨床での作業療法実践に関連する学術論文を検索・選定する。 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	学術論文抄読レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	5月7日(木)	5	オリエンテーション	吉川惠
2	5月14日(木)	5	文献検索　概要作成	
3	5月21日(木)	5	プレゼンテーション技法①	
4	5月28日(木)	5	プレゼンテーション技法②	
5	6月4日(木)	5	発表・討論	
6	6月11日(木)	5		
7	6月15日(月)	5		
8	6月22日(月)	5		
9	6月29日(月)	5		
10	7月6日(月)	5		
11	7月20日(月)	5		
12	9月3日(木)	3		
13		4		
14	9月10日(木)	5		
15	9月17日(木)	5		

(履修者へのコメント)

(テキスト)

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床作業療法特論	演 習	通 年	0T1年	1単位	45時間	吉川惠

教育目標	【一般目標】 リハビリテーション医療における臨床現場における作業療法の理論および実践方法を探求する。 【行動目標】 臨床での作業療法実践に関連する学術論文を検索・選定する。 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	学術論文抄読レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	9月24日(木)	5	発表・討論	吉川惠
17	10月1日(木)	5		
18	10月8日(木)	5		
19	10月15日(木)	5		
20	10月22日(木)	5		
21	10月30日(金)	4		
22	11月6日(金)	4		
23	11月13日(金)	4		

(履修者へのコメント)

(テキスト)

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
徒手療法特論	演 習	通 年	0T3年	1単位	45時間	髙梨翼

教育目標	【一般目標】 ・各種徒手療法の基本的概念や対象などの理解、対象者に対して安全に効果的に実施できるようになる。 【行動目標】 ・各種徒手療法の基本的概念や対象を説明できる。 ・安全に配慮しながら、対象者に合わせた適切な施術を行うことができる。 ・施術前後での変化に着目し、効果的であったかを考察できる。
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	11月2日(月)	3	問診による評価・仮説立て	髙梨翼
2	11月2日(月)	4	関節マニュビレーション	
3	11月4日(水)	3	関節モビライゼーション	
4	11月4日(水)	4	ストレッチ	
5	11月6日(金)	3	軟部組織リリース	
6	11月6日(金)	4	筋膜リリース	
7	11月9日(月)	3	PNF	
8	11月9日(月)	4	Rood法	
9	11月11日(水)	3	促通反復療法（川平法）	
10	11月11日(水)	4	マッサージ	
11	11月13日(金)	3	ゲートコントロール理論	
12	11月13日(金)	4	ボバース理論	
13	11月16日(月)	3	筋力増強訓練	
14	11月16日(月)	4	各種体操①	
15	11月18日(水)	3	各種体操②	

（履修者へのコメント）
・徒手療法は行う施術者により、結果に違いがみられやすいアプローチです。なんとなく「わかる」ではなく、しっかりと「できる」をみんなで目指していきましょう！
・小グループやペアによる実技形式ですすめていくので、動きやすい服装で臨むこと。
※授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

（テキスト）
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

（参考書）
・

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
徒手療法特論	演 習	通 年	0T3年	1 単位	45時間	髙梨翼

教育目標	【一般目標】 ・各種徒手療法の基本的概念や対象などの理解、対象者に対して安全に効果的に実施できるようになる。 【行動目標】 ・各種徒手療法の基本的概念や対象を説明できる。 ・安全に配慮しながら、対象者に合わせた適切な施術を行うことができる。 ・施術前後での変化に着目し、効果的であったかを考察できる。
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	11月18日(水)	4	各種療法の復習・反復練習①	髙梨翼
17	11月20日(金)	3	各種療法の復習・反復練習②	
18	11月20日(金)	4	各種療法の復習・反復練習③	
19	11月24日(火)	3	各種療法の復習・反復練習④	
20	11月24日(火)	4	ペア・グループワーク①	
21	11月25日(水)	3	ペア・グループワーク②	
22	11月25日(水)	4	ペア・グループワーク③	
23	11月27日(金)	3	ペア・グループワーク④	

(履修者へのコメント)
・徒手療法は行う施術者により、結果に違いがみられやすいアプローチです。なんとなく「わかる」ではなく、しっかりと「できる」をみんなで目指していきましょう！
・小グループやペアによる実技形式ですすめていくので、動きやすい服装で臨むこと。
※授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

(テキスト)
・必要な場合に限り，プリントを配布する.

(参考書)

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健統計分析学特論	演 習	通 年	0T3年	1単位	45時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 保健統計に関する理解を深め、作業療法の社会的な役割を探求する。 【行動目標】 保健統計に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 保健統計に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
1	11月2日(月)	3	保健統計とは何か１	三橋力也
2	11月2日(月)	4	保健統計とは何か２	
3	11月4日(水)	3	保健統計の手法について１	
4	11月4日(水)	4	保健統計の手法について２	
5	11月6日(金)	3	健康とは１	
6	11月6日(金)	4	健康とは２	
7	11月9日(月)	3	作用療法と健康とは１	
8	11月9日(月)	4	作用療法と健康とは２	
9	11月11日(水)	3	プレゼンテーション資料の作成１	
10	11月11日(水)	4	発表１	
11	11月13日(金)	3	資料の修正と再作成１	
12	11月13日(金)	4	地域における健康支援について１	
13	11月16日(月)	3	地域における健康支援について２	
14	11月16日(月)	4	地域における健康支援について３	
15	11月18日(水)	3	プレゼンテーション資料の作成２	

（履修者へのコメント）
・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

（テキスト）
・特になし、必要に応じて資料を配布する

（参考書）
・標準作業療法学　作業療法研究法　医学書院

科　目　名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健統計分析学特論	演 習	通 年	OT3年	1 単位	45時間	三橋力也

教育目標	【一般目標】 保健統計に関する理解を深め、作業療法の社会的な役割を探求する。 【行動目標】 保健統計に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 保健統計に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。
成績評価方法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。

回	月日(曜日)	時限	内容	担当者
16	11月18日(水)	4	発表２	三橋力也
17	11月20日(金)	3	資料の修正と再作成２	
18	11月20日(金)	4	保健統計と作業療法１	
19	11月24日(火)	3	保健統計と作業療法２	
20	11月24日(火)	4	保健統計と作業療法３	
21	11月25日(水)	3	プレゼンテーション資料の作成３	
22	11月25日(水)	4	発表３	
23	11月27日(金)	3	資料の修正と再作成３	

（履修者へのコメント）
・授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。

（テキスト）
・特になし、必要に応じて資料を配布する

（参考書）
・標準作業療法学　作業療法研究法　医学書院